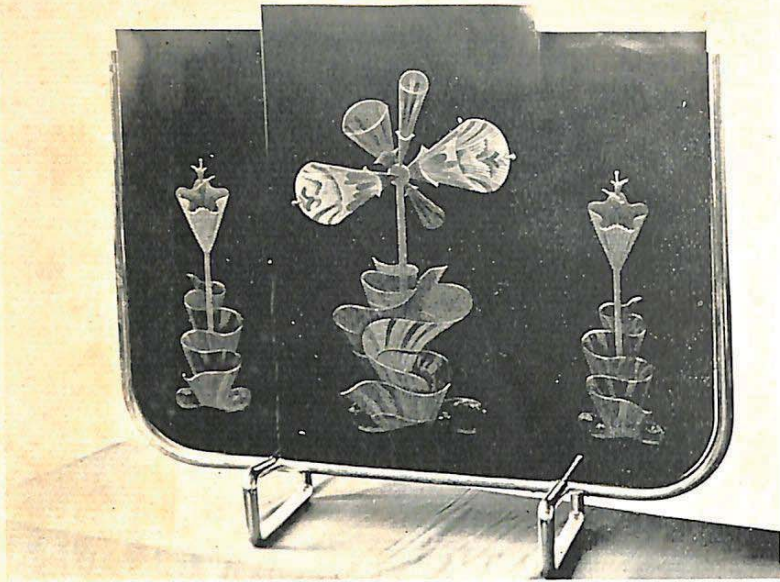


昭和九年度業務報告

和歌山縣工業試驗場

◇ 立前ブートス ◇



賞入會覽展藝工省工商回二十二第

◇ 器漆向出輸 ◇



及會覽展藝工出輸省工商回二第  
選入會覽展品作試藝工向出輸合聯縣府六畿近回一第

目次

第一章 染色部

- 一、縣下染織業ノ概況
- 二、染色部業務ノ概要
- 三、自發試驗
  - (一)シール捺染試驗
  - (二)綿ネル風相改善仕上試驗
  - (三)永久的光澤模様ニ關スル試驗
  - (四)收縮模様ニ關スル試驗
- 四、依賴試驗
- 五、質疑應答
- 六、實地指導
- 七、調 査
- 八、參考品展示及標本配布
- 九、其ノ他
- 一〇、來場者

第二章 機織部

- 一、機織部ノ業務概要
- 二、自發試驗
  - (一)夏期婦人服地製織試驗
  - (二)ワイシャツ生地製織試驗
  - (三)子供用肌着製織試驗
  - (四)輸出向ノ婦人服地製織試驗
  - (五)格子柄ノ夏期子供服地製織試驗

第三章 釀造部

- (六)女子供服地製織試驗
- (七)捺染ボブリン生地製織試驗
- (八)疑カンミヤ生地及輸出向ノ捺染生地製織試驗
- (九)ボイル風ノ捺染生地製織試驗
- 三、依賴試驗
- 四、依賴見本製織試驗
- 五、質疑應答
- 六、實地指導
- 七、調 査
- 八、特別工場設計依賴
- 九、照 會
- 一〇、其ノ他
- 一一、參考品展示及標本配布
- 一二、見習生
- 一三、來場者
- 一、縣下釀造業ノ概況
- 二、自發試驗
  - (一)吟釀酒母仕上ゲ法研究
  - (二)合成酒製法ノ比較研究
  - (三)甲班塗ノ清酒貯藏ニ及ボス影響調査
  - (四)パーチメント紙張圍桶使用清酒貯藏價值並ニ其ノ接合劑ノ比較研究

# 第一章 染色部

- (五) カブリン酸及フエニール・エチル・アルコ
  - (六) 柿澱製法ノ較研究
  - (七) 火災ニ依ル酒造用水變化ノ研究
  - (八) 濃醇酒研究ノ内半田式四段仕込ノ再調査
  - (九) 落柿利用法ノ研究
  - (一〇) 火落豫知法ノ研究
  - (一一) 園桶手入改良法ノ研究
  - (一二) 園桶外面ニ錫紙張ノ貯藏ニ及ボス影響研究
  - (一三) 等低温麴ト常法麴トノ比較研究
  - (一四) 清酒調熱速進法ノ研究
  - (一五) 中之島井水ノ酒造價值研究
  - (一六) 來年度繼續研究事項
  - 三、依頼試驗
  - 四、質疑應答
  - 五、出張
  - 六、講習、講話、研究会並ニ座談會
  - 七、品評會
  - 八、視察
  - 九、清酒酵母配布高
  - 一〇、記録配布
  - 一一、來場者
- ## 第四章 漆器部
- 一、縣下漆器業ノ概況
  - 二、自發試驗
  - (一) 紀州彫漆器ノ創作研究
  - (二) 塗立ト同時ニ種々ナル模様ヲ表現セシムル方法ニ就キ

- (三) 編織應用塗飾ノ研究
  - (四) 塗立ニ於ケル彩漆助成要素ト漆液トノ研究
  - (五) 瓦斯ストーブニ依ル塗漆乾燥試驗
  - (六) 廻轉塗裝機ノ研究
  - (七) 色繪研出ノ試作研究
  - (八) 漆器圖案ノ研究試作
  - 三、工藝指導ニ關スル事項
  - (一) 專任職員ノ設置
  - (二) 試作品展覽會ノ開催
  - (三) 講習會、講演會及座談會ノ開催
  - (四) 見本ノ製作
  - (五) 見本品ノ配布方法及配布先
  - 四、依頼試驗
  - 五、質疑應答
  - 六、實地指導
  - 七、調査
  - 八、貸與
  - 九、機械器具使用許可
  - 一〇、來場者
- ## 第五章 庶務部
- 一、文書收發件數
  - 二、職員出張回数並ニ日數
  - 三、印刷物ノ配布
  - 四、來場者
  - 五、現在職員

## 染色部

### 一、縣下染織業ノ概況

昭和九年度ニ於ケル本縣染織業ノ概況ヲ記セバ、輸外向ニ於テハ各國競ツテ輸入關稅ノ引上、輸入制限等連年世界的日貨排斥ノ聲ニ脅サレツ、モ、一面是等日貨排斥ノ聲ハ却而邦品ノ廉價良品タルコトヲ宣傳スルノ逆効果ヲ呈シ續々新販路ノ開拓ヲ見タルタメ、綿織物、綿ネル類ハ昨年ト大差ナキモ捺染綿布類ハ好調ナリシ一昨年、昨年ノ加工高ヲ尙ホ遙ニ凌駕スルノ好況ヲ示セリ。

内地向ハ所謂軍需インフレノ影響ヲ受ケ若干景氣好轉ノ兆現ハレタルヤニ見エタリシモ其後關西地方ノ大風水害、東北地方ノ冷害、九州地方ノ旱害等全国的ニ打撃ヲ蒙リタルタメ内地市場ハ萎微トシテ振ハズ、輸外向ノ旺盛ナルニ引替エ一般ニ不況ナリシ昨年ヨリモ更ニ加工高ノ減少ヲ示セリ。

人絹捺染ハ全体ノ數量ニ於テ未ダ重要ナル地位ヲ占ムルニハ至ラサレドモ、其ノ増加率ハ相當見ルベキモノアリ。

高野口方面ノシル類、卓子掛類ハ内地向品ハ若干ノ減少トナレルモ、是ニ反シテ輸外向ハ躍進的增加ヲ示セリ。是ヲ要スルニ本年ノ縣下染織業界ハ全体的ニ見テ内地向ハ依然トシテ不況ナリシモ、輸外向ハ前年ニ引續キ好成绩ヲ收メタルモノト云フ可シ。

左ニ各組合ノ生産統計ニヨル九年度本縣染織物ノ産額ヲ示ス。

昭和九年度染織物生産統計

品名	内地		輸出		合計	備考
	數量	價格亦ハ加工賃	數量	價格亦ハ加工賃		
綿織物類	二四、七三反	一、六五、七四四	一、八八、〇八七	八、二八、四一四	二、一五、六〇〇	一〇、〇〇四、一四五
綿ネル類	一、五六、九三三	一四、〇三、三七八	一、三六、八五二	一、七三、〇六五	二、七三、七五五	二六、三三、四三三
捺染綿布類	二、九五、五三二	一、一七、七三三	一、三、一五、六五七	九、七三、二一九	二、六、一〇八、六六	一〇、〇九〇、八三五
無地綿布類	五四、四〇〇	三、八、八九一	二、三、七、五五五	一、二、八四、四七	二、四、三、九三五	一、三、三三、一三八
捺染人絹布類	二、八、一四四	三、七、五、〇〇〇	六〇、五九〇	九〇、八八五	三、八、七四四	四、六、二八五
捺染モスリン類	一七、四六本	一、五〇、一五	—	—	一七、四六本	一、五〇、一五
シル類	一五、〇三碼 三三、〇〇打	八〇、一三五	七、八、八六碼	九、七、九〇九碼 三三、〇〇打	一七、四六本 三三、〇〇打	一、七二、四九六
卓子掛類	—	—	一五、〇〇〇打	三、五、〇〇〇	一五、〇〇〇打	三、五、〇〇〇
毛織其他ノ肩掛類	三、四、七打	六、九、六三二	—	—	三、四、七打	六、九、六三二
其他	—	四、〇、七三	—	—	—	四、〇、七三
合計	—	三、一、四、九、五五	—	三、三、二、四、二八	—	五、三、三、五、八三

一、染色部業務ノ概要

本年度業務ノ概要ヲ述ブレバ

先ヅ自發試驗ニ於テハ高野口地方ノ特産品タル「シル」ニ對スル新シキ試ミタル捺染試驗ハ霧噴染及ブロック捺染ノ兩法ニ關シ直接木綿染料ヲ應用スル基礎的試驗ヲ了シ業者ノ參考ニ資セリ。就中裏面ヨリ霧噴シテ「バイル」ノ根本部ノミヲ染色スル方法ハ趣味アル結果ヲ與フルモノトシテ特ニ好評ヲ博セリ。

次ニ綿布上ニ永久的光澤模様ヲ作ル方法竝ニ收縮模様ヲ作ル方法ハ當部ノ創見的研究ニシテ、今ヤ其ノ基礎的試驗ヲ了シ、引續キ其ノ細目竝ニ應用ニ付キテ試驗研究ヲ進ムル豫定ナリ。

綿ネルノ風相改善試驗ハ困難ナル問題ニシテ、着手以來既ニ相當ノ年月ヲ關セルモ未ダ成果ヲ得ルニ至ラズ、引續キ努力研究中ナリ。

尙ホ此外ニバット染料ノ機械染、人絹布ノ特種捺染法ニ關シ試驗ヲ行フ可キ豫定ナリシモ、最近依頼試驗、鑑定等ノ業務增加ニヨリ時間ニ其ノ余裕ヲ得ザリシタメ、明年度ニ割愛スルコト、セリ。

依頼試驗、質疑應答、實地指導等ハ逐年其ノ件數ヲ増加シ、當業者諸氏ノ利用増加ノ喜ブ可キ現象ヲ示シツ、アリ。

三、自發試驗

(一) シール捺染試驗

(イ) 染料撰定試驗

供試直接木綿染料數十種中捺染用トシテ適當シ且ツ染色堅牢度良好ナルモノヲ撰定シタル結果ハ左ノ如シ。

シリウス、エロウ	G
ニツボン、オレンジ	R
ダイアニル、ピンク	B D
シリウス、スカレット	B
シリウス、バイオレット	3 B
ニツボン、スカイブリユウ	
ペンゾ、ブロン	N B X
シリウス、グレー	G
ブルト、ブラウン	G G
ザンベイヂ、ブラック	D O O
ノアル、レジユイト	

(ロ) 捺染試験

捺染方法トシテハ霧噴捺染ト「ブロック」捺染ノ二法ニ付キテ試験セリ。

霧噴捺染ニ於ケル捺染液ノ處方如左

染料	料	適量
磷酸	曹達	一—二分
グリセリン		一分
水		一〇〇分

「ブロック」捺染ニ對スル捺染液ノ處方如左

染料	料	適量
磷酸	曹達	一—二分
グリセリン		一分
デキストリン (10%)		三〇分
水		一〇〇分

何レモ捺染後輕ク乾燥シ無氣壓ニテ三〇分間蒸熱ス。

(ハ) 裏面ヨリ霧噴捺染ヲ行フ方法

シルノ裏面ヨリ霧噴捺染ヲ適當ニ行ヘバ、地絲ハ綿ノ生絲<sup>ナ</sup>ナルヲ以テ殆ンド染液ヲ吸收セズ人絹絲ノ「バイル」<sup>ズ</sup>ケガ染液ヲ吸收シ「バイル」ノ根本部ガ適當ノ長サニ染色シ得ラル、ニヨリ、表面ヨリ捺染シタルモノトハ異リ雅味ニ富メル結果ヲ得可シ。

其ノ捺染液ノ處方如左

染料	料	適量
磷酸	曹達	一—二分
グリセリン		一分
デキストリン		適宜
水		一〇〇分

(ニ) 綿糸ノ風柄改善仕上試験

本題ヲ掲ゲテ以來既ニ相當ノ年月ヲ閱スルガ、何分加工費ノ点ニ於テ嚴重ナル制限ヲ受ク可キ性質ノモノナルヲ以テ本試験ハ仲々容易ナラサルモノアリ、未ダ成果ヲ得ルニ至ラズ引續キ努力研究ノ豫定ナリ。

(三) 永久的光澤模様ニ關スル試験

一定ノ條件ノ下ニ適當ニ調製セラレタル塩基性水酸化銅ヲ印捺シ置キ其ヲ稀薄アンモニア水ニ溶解促進劑ヲ添加セル溶液中ニ通入スル時ハ、印捺部ノ綿絲ノ表面ガ溶解セラレ、是ニ對シテ適當ナル處理ヲ施ス時ハ、其處ニ強キ永久的光澤ヲ發現スル事ノ發見ヲ基トセル當部ノ創見的試験ニシテ、既ニ基礎試験ヲ了シ目下細部ニ互リ試験ハ進行中ニシテ業者ノ注目ヲ蒐メツ、アリ。

(四) 收縮模様ニ關スル試験

其ノ原理トスル所ハ永久的光澤模様ト同一トナルモ、其ノ模様ヲ包圍的ナルモノトナシ、アンモニア液通入後ノ處理法ヲ變更スル時ハ其處ニ前者トハ全く趣ヲ異ニセル恰モ「エンボツシング」模様ヲ固定シ、永久化セルガ如キ結果ヲ生ズ。光澤模様ト併セ試験ハ尙進行中ナリ。

四、依頼試験

事	項	件	數	点	數
精練漂白ニ關スル事項		一四		一六	
絲染ニ關スル事項		一七		九九	
布染ニ關スル事項		二		二	
捺染ニ關スル事項		九		一〇	
仕上ニ關スル事項		四		五	
染料ニ關スル事項		一七		四〇	

染色助劑ニ關スル事項	一		一
水質分析ニ關スル事項	四		七
タンニン酸分析ニ關スル事項	二四		五四
フイブロンゾルニ關スル事項	一三		二四
其他工業藥品分析ニ關スル事項	一五		三一
工業藥品製造ニ關スル事項	二		四
規定液調製ニ關スル事項	五		六
雜漂白ニ關スル事項	二		二
人絹艶消ニ關スル事項	四		四
綿布強力ニ關スル事項	六		六九
不上リ原因鑑定ニ關スル事項	四		八
其他	八		一〇
合	一五一		三九二
計			

五、質疑應答

事	項	件	數
精練漂白ニ關スル事項		二四	
絲染ニ關スル事項		一〇	



布染ニ關スル事項  
 捺染ニ關スル事項  
 染色堅牢度ニ關スル事項  
 染色助劑ニ關スル事項  
 仕上劑ニ關スル事項  
 染料ニ關スル事項  
 糊料ニ關スル事項  
 工業藥品ニ關スル事項  
 フイプロインヅル應用ニ關スル事項  
 人絹布絲艶消ニ關スル事項  
 纖維特種加工ニ關スル事項  
 雜漂白並ニ染色ニ關スル事項  
 絲ノ織度ニ關スル事項  
 綿布強力ニ關スル事項  
 不上原因ニ關スル事項  
 工場ノ設備ニ關スル事項  
 染織參考標本ニ關スル事項  
 特許ニ關スル事項  
 其他

二八  
 四  
 五  
 四  
 五  
 一〇  
 二  
 二九  
 四  
 三  
 四  
 一〇  
 五  
 六  
 五  
 六  
 二  
 一〇  
 五  
 六  
 二  
 二

合計 一二五

六、實地指導

事 項  
 精練漂白ニ關スル事項  
 絲染ニ關スル事項  
 捺染ニ關スル事項  
 仕上ニ關スル事項  
 防水加工ニ關スル事項  
 藥品製造ニ關スル事項  
 工場設備ニ關スル事項  
 其他

件 數  
 二  
 四  
 四  
 四九  
 一  
 三  
 二  
 三  
 二  
 三  
 八五

七、調査

事 項  
 縣外染織業視察調査

件 數  
 三

染織業取締ニ關スル調査	一三
工場設備ニ關スル調査	四
染色及捺染狀況ニ關スル調査	三
毛織物ニ關スル調査	一
起毛工業ニ關スル調査	二
人絹布長サニ關スル調査	二
タール分溜物關係工業調査	一
特許公報ニ關スル調査	常時
暴風雨被害狀況調査	三日
其他	二

### 八、參考品展示及標本配布

(一) カイロ及盤谷市場蒐集海外染織標本展示會	一	回	三日
(二) 同右染織標本配布	一	回	三〇部
(三) シール捺染試験標本配布	一	回	二〇部
(四) 埃及市場ニ於ケル綿ネル需給狀況報告書配布	一	回	五〇部

### 九、其他

特許ニ關スル證明書下附	一
場長會議提出書類作製	一
染織技術官協會諮問織物試験方法ニ關スル意見書作製	一
其他	三

### 一〇、來場者

來場者 七十三名

第二章 機 織 部

## 機 織 部

### 一、機織部業務ノ概要

本邦ノ染織工業ハ飛躍的增加振ヲ示シ、殊ニ最近ノ新興纖維ノ隆盛ハ益々向上研究セラレ製品化シツ、アル今日、本縣下ノ織物モ漸次輸出及内地向綿布、捺染布ネル織物小供服地具他ノ生産品ニ新興纖維等ヲ應用スルコトニ注視シ來タリシ傾向ハ趨勢ニ善應シタル適切ナルモノト稱スベク、是レガ漸次濃厚ナル機運ニ向ヒツ、アルハ業界ノ發展策トシテ最モ必要ナルモノニシテ、如斯益々研究ニ相當ノ努力ヲ費シ向上ヲ計ラントナス機運ハ誠ニ本縣業界將來ノ爲メ慶賀ニ堪エザル處ナリ。

本部ハ先年度ニ於テ研究指導ノ設備トシテ機械ノ据付ヲ完了シ、本格的ニ輸出及ビ内地向綿布、捺染生地ネル其他ノ生地織物ノ研究ヲナシ、人造絹絲、新興纖維ノ應用織物ノ研究試驗ヲナシ、染色部トノ連繫ハ勿論、諸官衙、組合及ビ當業者トハ密接ナル聯絡ヲ保チ、業界ノ趨勢ニ鑑ミ最モ適切ナル業務ノ遂行ヲ計リ、一般當業者ノ技術ノ進歩發達ニ對シ指導啓發ニ努メタリ。

自發試驗トシテハ可成適切ナル各種纖維ノ應用ニ成ル輸出及内地向織物、綿布見本製織並配布、捺染生地ノ製織、ネル生地等ノ見本配布ヲ行ヒ、外ニ捺絲機應用織物ノ向上ヲ計リ其範ヲ示シ、他ニ海外市場、内地市場蒐集織物參考標本ノ展示及配布其他當業者ノ便ヲ計リ、依頼見本製織試驗、依頼試驗、質疑應答、調査照會事項等ヲナシ其數増加シツ、アリ。

次ニ本年度ノ自發試驗製作品設計、依頼見本製作試驗設計及ビ質疑應答、其ノ他ノ業績事項ノ概要ヲ摘記スレバ次ノ如シ。

二、自發試驗

(一) 目的

經絲ニ人造絹絲、緯絲ニ飾撚絲ヲ應用シ、夏期婦人服地ヲ製織セントス。

- 經 絲 人絹一五〇D 帝國人造絹絲
  - 緯 絲 人絹一二〇Dト綿絲四〇番單絲トノ撚絲
  - 箴 幅 八五種 箴密度一種間一六・五羽、引通數一羽二本
  - 經 絲 本 數 二八〇四本
  - 綜 統 一〇枚 順次式通シ組織一〇枚  $\frac{4}{3} \frac{1}{2}$  斜紋
  - 緯絲打込數 一種間 一九・七本 緯絲一挺抒
  - 下拵方法 經絲ハインダンスレン染、緯絲ハ綿絲四〇番ヲ芯トシ人絹一二〇Dヲ撚ミトス。
  - 製織機械 平野式綿織機改造型
  - 整 經 長三〇米 幅八二・七米 仕上 長二五・五米  
幅九〇種 織上 幅八一・三米 量目四・一四〇疋
  - 結 果 夏期婦人服地トシテハ稍々厚地ノ傾キアルモ風味、意匠等良好ナル生地ヲ得タリ。
- (二) 目的
- 經絲ニベンベルグ絲、緯絲ニ人絹壁絲ヲ織リワイシャツ生地ヲ得ントス。
  - 經 絲 ベンベルグ絲 一二〇D
  - 緯 絲 ベンベルグ絲 一二〇Dト生絲二Dトノ壁絲

(三) 目的

經緯ニ綿絲ノ強撚絲ヲ交互ニ配シテナル子供用肌着ヲ得ントス

- 經 絲 綿絲二〇番強撚單絲及四番單絲其儘
  - 緯 絲 經絲全樣
  - 箴 幅 八七・五種、箴密度一種間九・〇五羽 一羽 二〇番二本入  
四 番一本入
  - 經 絲 本 數 一・五八八本
  - 綜 統 七枚、組織 變化斜紋
  - 緯絲打込數 一種間 一一本
  - 下拵方法 二〇番綿絲ハ一米一三〇〇回加撚左撚
- 結 果 ワイシャツ生地トシテノ適品ヲ得タリ。
  - 整 經 長五〇米 幅四七・七米 仕上 長四七・七米  
幅九〇種 織上 幅七八・七米 量目四・六五〇疋
  - 製織機械 北原式絹布織機
  - 下拵方法 緯絲ハ生絲二Dヲ芯絲トシ人絹一二〇Dヲ撚絲トス
  - 緯絲打込數 一種間 二八・四本
  - 綜 統 四枚、組織平織
  - 經 絲 本 數 三・八九六本
  - 箴 幅 八一・三種、箴密度一種三・六羽 一羽二本入

(四) 目的

經緯ニ人絹及綿ヲ緯絲ニ變擦絲ヲ織リ輸出向ノ婦人服地ヲ得ムトス。

- 製織機械 平野式綿織機
- 整經 長一〇・九〇米 幅九〇〇種 織上 幅八九米 仕上 幅七〇・二〇米 量目三・八〇一疋
- 結果 子供肌着トシテ風味豊カナ生地ニシテ、製品ハ頗ル好評ヲ得、當業者中ニ製織シツ、アルモノアリ。

經緯 綿絲八〇番双絲、人造絹絲一五〇D

緯絲 綿絲四〇番ト人造絹絲二二〇Dトノ變擦絲

箆幅 八二・五種、箆密度一種間一羽一羽 地三本入 縞五本入

經絲本數 四四六〇本

線統 九枚 組織 朱子ト平トノ混成組織

緯絲打込數 一種間 一五・七本

下拵方法 絲四〇番ヲ芯絲トシ人絹一二〇Dヲ搦絲トス

製織機械 平野式綿織機

整經 長二八米 幅九〇種 織上 幅八一・二種 仕上 幅八二・五種 量目三・三〇疋

結果 經ニ配セル朱子ノ縞、ヨク引立テ輸出向婦人服地トシテ好適ナルモノヲ得タリ。

(五) 目的

經緯ニ綿絲、緯絲ニ人絹紡績絲ヲ應用シ格子柄ノ夏期子供服地ヲ得ムトス。

經緯 綿絲、三〇番、單絲

箆幅 八三種、箆密度一種間二三・二羽、一羽二本入

經絲本數 二・四四〇本

綜統 八枚、組織、四枚朱子、2/2斜文

緯絲打込數 一種間 二二本

下拵方法 ステープル・フアイバー絲ハ双絲トナシ一米三八〇回加擦ス

製織機械 平野式綿織機

整經 長一五・五米 幅九〇種 織上 長一四・〇米 幅七八・七種 仕上 長一三・二米 幅六八・五種 量目一・九一七疋

結果 毛ノ風味ヲ多分ニ有シ夏期子供服地トシテノ適品ヲ得タリ。

(六) 目的

經緯ニ強擦綿絲ト人絹ト交互ニ配シテナル女子供服地ヲ製織セントス。

經緯 綿絲三〇番強擦ト人造絹絲三〇〇D

緯絲 經絲全樣

箆幅 八三・七種、箆密度一種間一三・二羽、一羽二本入

經絲本數 二・一四四本

(七) 目

經絲ニ人絹、緯絲ニ人絹紡績絲ヲ織リ捺染オプリン生地ヲ得ムトス。

- 綜 統 一〇枚 組織 平ト綾トノ混成組織
- 緯絲打込數 一種間一八・一本
- 下拵方法 綿絲三〇番ハ一米二二〇〇回加撚
- 製織機械 平野式綿織機
- 整 經 長一八・二〇米 織上 長一六・五〇米
- 幅九〇〇種 幅八一・二〇種
- 量目六・七八〇疋 量目六・七八〇疋
- 結 果 女子供服地トシテ好適ナル生地ヲ得タリ。
- 仕上 長一四・七〇米
- 幅七四・八〇種
- 量目六・六八〇疋
- 經 絲 人造絹絲一二〇D
- 緯 絲 人絹紡絲 三〇番三本撚
- 筵 幅 七八・七種、筵密度一種間一四・六羽、一羽四本入
- 經 絲 本 數 四・五八八本
- 綜 統 四枚 組織平織
- 緯絲打込數 一種間一四・九本
- 下拵方法 緯絲ハ三本引揃ヘ一米六六〇回加撚
- 製織機械 北原式絹織機
- 整 經 長一八・二〇米 織上 長一六・五〇米
- 幅九〇〇種 幅七八・七種
- 量目二・五一九疋 量目二・五一九疋
- 仕上 長一三・二三米
- 幅七三・六種
- 量目二・三二〇疋

(八) 目

經絲ニ綿絲、緯絲ニ人絹紡絲ヲ配シテナル疑カシミヤ生地及輸出向ノ捺染生地ヲ得ントス。

- 結 果 ボプリントシテノ手觸リ風味申分ナキ捺染オプリン生地ヲ得タリ。
- 經 絲 綿絲六〇番單絲
- 緯 絲 人絹紡絲 三〇番單絲
- 筵 幅 八一・三種、筵密度一種間七・九羽、一羽三本入
- 經 絲 本 數 二・一七八本
- 綜 統 六枚 組織 1/2斜文
- 緯絲打込數 一種間 五五・二本
- 製織機械 平野式綿織機
- 下拵方法 普通
- 整 經 長一八・二〇米 織上 長一五・五〇米
- 幅九〇〇種 幅七三・五種
- 量目一・三三〇疋 量目一・三三〇疋
- 仕上 長一三・〇〇米
- 幅六・六種
- 量目一・二六〇疋
- 結 果 風味毛ニ劣ラザル豫期ノカシミヤ生地ヲ得タリ。

(九) 目

經絲ニ人絹、緯絲ニシミレオン絲ヲ織リボイル風ノ捺染生地ヲ製織セントス。

- 經 絲 人造絹絲二〇〇Dト三〇〇Dトノ甘撚絲
- 緯 絲 シミレオン絲 一〇番單絲
- 筵 幅 八一・二種、筵密度一種間一四羽、一羽一本入

經絲本數	一・〇七二本
綜	四枚 組織 平織
緯	一種間 一〇・三本
下拵方法	經絲引揃絲 一米三〇〇回加撚糊付ス
製織機械	北原式絹布織機
整	長二七・三〇米 幅九・〇〇櫃
結	織上 長二四・五〇米 幅七・六一櫃 量目四・六三〇疋
果	輸出向捺染生地トシテ適品ヲ得タリ。
仕上	長二二・三〇米 幅六・六六櫃 量目四・五二〇疋

### 三、依頼試験

件名	件数	点数	件名	件数	点数
織物組織分解並構成設計	四三	七三	蚊帳生地ノ仕上ニ關スル試験	一	一
綿絲ノ糊付ニ關スル試験	一	一	ネル生地ノ輸出物ニ關スル檢定試験	一	一
バイル織ニ關スル試験	一	一	絹織物ノ製織ニ關スル試験	一	一
人絹絲ノ配色ニ關スル試験	一	一	綿布タツサー織ノ人造纖維ノ有無ノ鑑定試験	一	一
番手ノ檢定ニ關スル試験	一七	二三	人絹絲用 シルクロー藥劑ノ試験	一	一
綿絲ノ檢尺ニ關スル檢定	六	一一	綿絲ノ強撚加工ニ關スル試験	一	一
ネル生地ノ仕上ニ關スル試験	一	一	ゴム芯入織物ニ關スル鑑定及試験	二	二

桐生製管捲機ト他ノ管捲機ノ性能比較試験	一	一	「ステブルファイバ」絲織物ト他ノ絲織物トノ強伸度比較試験	一	八
ステブルファイバーノ生絲ト糊付トノ強伸度比較試験	一	一	柞袖絲見本織ニ關スル試験	二	二
糊料ト強伸度トノ關係ニ就イテノ試験	一	一	スパールテリ紙原料製織ニ關スル試験	一	一
ノイル絲ノ強伸度ニ關スル試験	一	二	三個所生産地ノ製織生地ノ番手比較檢定試験	一	三
金巾捺染生地ノ檢尺ニ關スル檢定	三	七	人絹ゴプリンノ精練仕上ニ關スル試験	二	五
雙人絹捺染生地ノ檢尺ニ關スル檢定	三	三七	撚絲檢撚ニ關スル件	一	五
人絹壁絲作製ニ關スル試験	三	三	人絹撚絲ノ撚止ニ關スル試験	一	一
人絹認糊付ニ關スル試験	二	二	タンニン酸處理絹絲ノ應用織物強伸度試験	一	一
人絹織物工場設計ニ關スル工具ノ試験	二	二	織物量目檢出ニ關スル試験	三	三
輸出綿織物ニ關スル証明書下附ニ對スル試験	一	一	其他	六	四
管捲機整調ニ關スル試験	一	一	計	一六	二二

### 四、依頼見本製織試験

一、目的 從來ノ織込「ネル」ト趣キヲ異ニシ緯ニ撚メテ少ナキ絲ヲ用ヒ毛經ノ風合ヲ「英ネル」ニ類似シタルモノヲ得ムトス。

一、目的 在來ノ輸出綿絲ニ人造絹絲ノ縞ヲ配シ組織ヲ應用シテ種々ナル模様ヲ現ハシ新規ノ縞綿布ヲ得ムトス。



- 一、目的 經絲 綿絲 四〇番單絲、人造絹絲一五〇デニール 緯絲綿絲二〇番單絲 製織點數 二點
- 一、目的 縞三綾ニ人造絹絲ヲ縞ニ入レ新規ナル縞三綾ノ柄ヲ得ムトス。
- 一、目的 經絲 綿絲 三〇番單絲人造絹絲一五〇デニール 緯絲綿絲二〇番單絲 製織點數 二點
- 一、目的 經緯綿絲ニテ摸紗織トナシテ捺染生地ヲ得ムトス。
- 一、目的 經絲綿絲三〇番單絲、緯絲四〇番單絲 製織點數 二點
- 一、目的 紡毛絲ヲ經緯ニ用ヒテ平ノ袋織組織トナシ「クリヤラークロス」ノ生地ヲ得ムトス。
- 一、目的 經緯緯絲共 紡毛絲八番單絲 製織點數 一點
- 一、目的 經絲綿絲八番單絲、緯絲柞紬絲四番單絲 製織點數 一點
- 一、目的 輸出向人絹縞入サロンヲ製織セントス
- 計 經絲綿絲二〇番單絲人造絹絲一五〇デニール 經絲綿絲一六番單絲 製織點數 一點
- 計 一點

### 五、質疑 應 答

- | 件 名         | 件 數 | 件 名         | 件 數 |
|-------------|-----|-------------|-----|
| 特殊「ネル」ニ就キ   | 七   | 絹布織機ノ機構ニツキ  | 一二  |
| 人絹絲入ネル織物ニ就キ | 二   | 綿ボブリン製織ニツキ  | 四   |
| 子供服地ノ見本織ニツキ | 一六  | 織物組織ノ見分方ニ就キ | 二   |

- |                 |    |                    |    |
|-----------------|----|--------------------|----|
| 人絹交織ノ「ビツケ」織ニツキ  | 一  | 「ドビー」機ノ紋織ニツキ       | 四  |
| 人絹絲糊付及糊料ニ就キ     | 二八 | 緋絲製造法及其用途ニツキ       | 三  |
| 織前碼記錄ニツキ        | 二  | 人絹製筵用杼ニ就キ          | 三  |
| 「バイル」織ニツキ       | 四  | 紙織物ノ製織研究ニ就キ        | 一  |
| 力織機ノ機構ニツキ       | 九  | 人絹絲ト綿絲ノ番手換算法ニツキ    | 一  |
| 高速度管捲機ニ就キ       | 一九 | 帽 帶 織 ニ ツ キ        | 一  |
| 「シミレーション」絲ニツキ   | 四  | 人絹絲用油及其性質ニツキ       | 一〇 |
| 手 織 機 ニ 就 キ     | 三  | 織物整理ノ方法ニツキ         | 一六 |
| 綿絲ノ糊付ニ就キ        | 二一 | 人絹織物ノ統制ニツキ         | 一  |
| 織物組織ニツキ         | 三九 | 特 許 ニ ツ キ          | 六  |
| 人絹織物ニツキ         | 二六 | 生絲ノ利生方法ニツキ         | 一  |
| 變リ撚絲ニツキ         | 二六 | 工場 管理 法 ニ ツ キ      | 二  |
| ジャカード機及其用法ニツキ   | 九  | 強撚絲ト其撚止方法ニツキ       | 一〇 |
| 綿織機ト將來ノ織物ノ推移ニツキ | 三  | ステブルソファイバー絲應用織物ニツキ | 一七 |
| 麻 織 物 ニ 就 キ     | 一〇 | 和歌山織物界ノ趨勢ニツキ       | 二  |
| 綿織機ノ人絹布ニツキ      | 一  | 織物 消 費 稅 ニ ツ キ     | 八  |
| 人絹織物ノ準備工程ニツキ    | 九  | 別 珍 織 ニ ツ キ        | 一  |
| 紀州ネルノ起因及沿革ニツキ   | 一  | 人絹絲、綿絲交織物ニツキ       | 三四 |
| 毛織物用力織機ノ撰定ニツキ   | 四  | 各種細番手織物ニツキ         | 二  |

件名	件数
線返機ニツキ	一
綿ネル織物ノ統制ニツキ	一
「ギンカム」生地ノ採算ニツキ	一
綿絲ノ品質檢定ニツキ	一
仕上綿布番手ニツキ	一
中耳装置ニツキ	二
人絹絲五枚朱子織物ニツキ	二
人絹絲及綿織物工場建築及設備設計ニツキ	五九
輸出綿布ノ番手ニツキ	一
織上幅ト筈幅トノ關係ニツキ	三
絹紡絲ノ番手ニツキ	一
人絹絲線返機ニツキ	一
梨子ネル織物ニツキ	一
人絹絲用整經機ニツキ	一

### 六、實地指導

件名	件数
綜統ト組織ノ關係ニ對スル調整	二

件名	件数
綿毛交織物ノ番手ニツキ	一
輸出人絹織物ノ檢査ニツキ	一
綿織物ノ綜統引通方ニ就キ	一
絹織物ニツキ	四
準備機製作ニツキ	一
紡毛絲袋織ニツキ	五
織物ノ柄及配色ニツキ	三
柞蠶紬絲織物ニツキ	七
絲ノ強伸度ニツキ	一
「タベット」設計ニツキ	一
絹屑絲ノ應用織物ニツキ	一
麻絲紡毛絲ノ糊付ニツキ	二
其他	八
計	五〇〇件

件名	件数
人絹絲製織ニ對スル織機ノ調整	二四

件名	件数
人絹絲線返方法及調整	二
織物組織分解方法	四
人絹絲糊配合及方法調整	九
絹麻生地製織ニ對スル筈機調整	一
擦絲機ノ調整及變擦絲作製方法	四
特許出願ニ對スル製圖方法	一

### 七、調査

件名	件数
人絹絲強擦絲機ニ關スル調査	一
織物工場風水害ニ關スル調査	一
人絹織物統制ニ關スル調査	一
全巾細布天二筈ニ關スル調査	一
織物原價採算ニ關スル調査	一

件名	件数
高速度管捲機ノ調整及操作方	一
人絹製織準備機ノ据付及ビ調整	四
麻絲及紡毛絲ノ糊付方法	二
織物工場診斷及設備改善ニツキ	二四
計	八八件
子供服地人絹織物ニ關スル調査	一
隨時織機及従業員ニ關スル調査	一
隨時織物原價採算ニ關スル調査	一
隨時綿絲相場其他ノ高低ニ關スル調査	一
計	九件

### 八、特別工場設計依頼

- (イ) 工場設計 (坪八〇ニ對シ名古屋式織機三〇台ニ於ケル設計) 一件
- (ロ) 工場設計 (坪七二ニ對シ木デキソン式織機二〇台ニ於ケル設計) 一件

(ハ) 工場設計及模様替 (坪八二・五ニ對シ津田式織機二〇台ニ於ケル設計) 模様替綿織機五〇台及準備機ノ移轉ニ對スル設計

九、照

會 (當業者ノ依頼ニ依ルモノ)

織物ニ關スル照會	一〇件	人絹絲用油ニ關スル照會	一件
織機ニ關スル照會	六件	染色絲ニ關スル照會	一件
絲ニ關スル照會	七件	織物文獻ニ關スル照會	一件
準備機ニ關スル照會	四件	計	三三件
特許ニ關スル照會	三件		

一〇、其

他

織物用檢定機械調査	一件	重油發動機ノ調査	一件
他縣産絹織物生産照會調査	一件	特許及實用新案ニ關スル調査	三件
杼名 稱 詰 源 調 査	一件	其	二件
染織用語統一ニ關スル染織用語調査	一件	計	十件
		他	

一一、參考品展示及標本配布

海外市場磐谷、カイロ蒐集織物標本展示會

一回 二日間

本場試織品標本配布	(五種類)	一回	一〇九部
海外市場磐谷、カイロ蒐集織物標本配布	(二八種類)	一回	五〇部
本場試織品標本配布	(七種類)	一回	一一三部
内地市場蒐集織物標本配布	(八種類)	一回	五〇部
本場試織品標本配布	(四種類)	一回	一一五部

一二、見習生

目 的	期 間	氏 名
新工場經營ニ對スル一般織物組織學及實地見習	昭和九年五月ヨリ 九ヶ月間 昭和十年一月迄	海 南 市 黒 江 池 原
織物組織學實地見習	昭和九年七月ヨリ 五ヶ月間 昭和九年十一月迄	和 歌 山 市 七 番 丁 上 山
		和 滋 夫 郎

一三、來場者

一三五九名

第三章 釀造部

## 釀造部

### 一、縣下釀造業ノ概況

本年度縣下釀造物ノ製産高ハ別表ノ如ク清酒七萬四千四百六十石前年ヨリ七分二厘減、醬油ハ三萬九千四百六十七石前年ヨリ四分七厘増ヲ示セリ。

清酒ハ持越高多ク米高ト酒況沈滞ノ爲全國的ニ生産高減少ヲ爲セシ結果、本縣モ亦減造セルモノニシテ其後持越酒ノ消化モ宜シク秋高ノ聲高シ。本酒造期ハ早冷ノ氣味ナリシモ本期節ニ入りテ稍温カク、加フルニ九月二十日ノ六十米突ノ風害ト早冷トノ影響ニ依リ米ノ盛熟惡ク質軟カク造リ惡キ年柄ナリシモ釀枝ノ進展ト細心ノ注意ヲ拂ヘル爲ニ安全ニ釀出スルコトヲ得、市場酒ハ世ノ嗜好ニ從ヒ濃醇甘口型ニ釀造シタリシモ年癖トシテ幾分湧キ強ク辛口ニ偏セムトスル傾向アリシモヨク抑ヘテ旨口濃醇ヲ得タリ。

吟釀ニ至リテハ米ノ嚴選、精白ノ向上著シク然カモ高精白酒造技術ノ熟達ニ依テ芳醇各所ニ簇出、芳香ニシテ温雅ナル旨口濃醇ヲ得、進歩實ニ顯然タルモノアリ。特ニ低温最高醗取法ヲ指導セシ結果ハ温暖地ナルニ拘ラズ良好ニシテ在來ニ比シテ香氣ニ於テ一段ノ改良ヲ遂ケタル如ク感セラレ。本年ハ昨年ニ比シ並モ吟モ比較的大湧キ氣味ニシテ垂レ多ク粕少シ。其ノ施設ニ於ケル改善ノ主タル点ハ堅型精米機ノ使用増加、錫張タンク、琺瑯性各種容器、耐震混凝土煙突ノ新設數ヲ増シタルコト是ナリ。

特ニ本年ノ風害ハ本縣ニ於テ著シク六酒造場ノ倒壊、漏失酒二百余石、煙突ノ破壊二十余ニシテ其ノ損害二十萬圓ヲ出ル、ヘク慘憺タルモノナリ。然ルニ何レモ復舊多少ノ減石ヲ爲シタルモ再起酒造ニ着手シタルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ。

昨夏ヨリ販賣ニ着手シタル冷用酒ハ本年ニ入り需要大ニ増加シ、今ヤ試飲時代ヲ過ぎ實用期ヘト轉換シ、酒屋ノ夏枯レモ解消スルノ日モ近カルベク前途洋々タリ。

四段仕込モ亦増加シ本年度ハ二千八百石ヲ醸造スルニ至リ、其ノ技術モ熟達シ四段香取レ濃醇度ヲ増シ調合用トシテ賞用サル、ニ至レリ。

醬油業ハ増石ヲ示セドモ經營ハ相變ラズ困難化シ、局面打開ニ官民共ニ焦心シ、昨年來醬油組合ヲ工業組合化シ共同施設ヲ爲シ一致協力斯業ノ改良ニ邁進スベク會合數次、漸ク具体化セムトスルニ至リ、縣當局モ歴史深ク氣候溫暖醬油醸造ニ適スル本縣ノ醬油業改善指導ノ重要ナルヲ認メ、來年度ヨリ醬油專任技術官一名ヲ増設セルヲ以テ、官民一致協力セバ將來アルベシ業者ハ原料大豆ノ昂騰ニ惱ミ脱脂大豆ノ利用ヲ爲スモノ漸増ノ傾向ニアリ。他面調味料トシテハアミノ酸ノ使用モ増加シ、其ノ製造裝置ヲ爲ス者モ増加シツ、アリ。然レドモ醬油中ノアミノ酸ト酸ト酸分解ニヨルアミノ酸トハ旋光性ニ於テ相違アル如ク、又味ニ於テモ異ルノミナラズ、其ノ特有ノ香氣ハ醬油ノ芳香ヲ損スル所大ナレバ、此ノ点ニ付キ一層ノ研究改良ヲ施スニ非サレバ世ノ嗜好ヲ喚起スルコト難キニ非ルカ。

本年度本縣醸造高ヲ表示セバ左表ノ如シ

昭和九年度本縣醸造物製産高表 (稅務署ノ調査ニ原ク)

稅務署別	種別	清酒		味淋		燒酎		醬		油		食酢酒		精原稅高		酒精含有飲料	
		製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員	製成高	場數人員
和歌山	和歌山	三、三六石	六	一、〇〇石	二	一、六〇石	四	一、三〇〇石	五〇	五〇	三〇〇	六	一、七六八	八			
海草	海草	二七、四三三	三三	〇	〇	六	三	三	六、五〇〇	三七	五	一〇	一、〇五八	一			
粉河	那伊賀都	三、七〇〇	六	〇	〇	〇	〇	〇	二、八七九	五三	五三	一〇一	四	一〇、〇〇	一		
湯淺	有田	五、一九八	一六	四	一	一、四二	二	一、二九九	一、二九	三三	三三	八	〇	〇	〇	〇	〇
御坊	日高	五、六五六	六	〇	兼二	〇	兼二	三、六〇一	一六	一六	〇	五	〇	〇	〇	〇	〇
田邊	西牟婁	三、〇〇〇	九	〇	〇	〇	〇	三、九四七	一八	一八	五〇	三	三、八八	一〇	一〇	一〇	一〇
新宮	東牟婁	八〇、三三九	九〇	四	四	一、九五	七	三、七〇九	一八〇	一八〇	五、六六	八	八	八	八	八	八
計		七四、四三〇	九〇	三二	三二	三六	二二	三、九四七	一八八	一八八	五〇	三	三、八八	一〇	一〇	一〇	一〇
前年		八〇、三三九	九〇	四	四	一、九五	七	三、七〇九	一八〇	一八〇	五、六六	八	八	八	八	八	八
増減		五、七〇九	〇	増一	増一	三	増四	一、七五八	増八	増八	一六						

二、自發試驗

一、吟醸酒母仕上ゲ法研究

近時生醱系、新式系酒母共ニ最高温低下シ、甚ダシキハ醱ノ最高ト醱ノ最高ト相一致スル方成績佳良ナリト爲シ、最高温一三——一四度ニ及フモノアリ。果シテ本縣ノ如キ温暖地ニ於テモ斯様ニ酒母ノ最高温ヲ低下シ得ベキヤ、又醱醱ニ影響スル所如何ナルヤヲ研究セムト欲シ、縣下數酒造場ニ於テ最高温ノ低下ヲ生醱系ニ於テ一七度ヲ限度トシテ育成シ醱ヲ掛ケ研究セルニ

- (イ) 普高低温低下度甚シキ程、分ケ後使用前迄ノ味ノ變化甚シク、香氣ハ芳香ニ富ムモノト認ム。
- (ロ) 膠ヲ掛ケルニ湧キノ開始早く初期酒精ノ集成多キモ、後期ニ於テ稍鈍ル感アリ。清酒ノ着色度少ク芳香ニ富ミ氣目細カクナルモノト認ム。製成歩合ニハ影響少シ。
- (ハ) 本縣ノ溫暖地ヲ以テシテモ最高温ノ低下一七度ニ至ルモ危險ヲ伴フコトナク未ダ低下シ得ルモノト認ムルモ、温暖ナル爲添エ卸ス時期マデノ酸味ノ變化ニ留意シザレバ味却テ老ネル傾向アレハ注意ヲ要ス。
- (ニ) 低下範圍互ニ酒母汲水歩合等ニ就テハ猶一層研究ノ要アリ。

## 二、合成酒製法ノ比較研究

該研究ノ一端トシテ先ヅ坪井博士法、高橋博士法ヲ比較シ、其ノ結果下記方法ニヨリ合成酒ヲ造リタルニ、稍福ラミニ乏シキ嫌アレドモ、大体在來酒ノ香味ヲ備フルモノヲ得タリ。

### 合成酒配合表

- (一) 麴エキス(母氏二・五) 五〇蚝、水五七五蚝
- (二) 右液五〇〇蚝ニ付絕對酒精八七蚝、琥珀酸〇・五瓦、フマール酸〇・五瓦、アラニン痕跡、グリシニン一〇蚝、乳酸エチル一滴、乳酸メチル一滴、メチルアルコール一滴、木香十倍液〇・〇一蚝
- 右混和後太陽光線ニ曝露スルコト六時間スレバ大体出來上ル、此ノ太陽光線ニ曝露スルト否トハ調熟作用ニ大差アリ。曝露スル方、香味共ニ在來酒ニ接近ス。

## 三、甲珓塗ノ清酒貯藏ニ及ホス影響調査

甲珓塗ト稱スル昔ノ甲ニ塗布スル漆様塗劑塗ノ鐵片ヲ清酒中ニ浸漬スルコト六ヶ月余ニシテ對照物ト比較スルニ、清酒ニ漆様香氣ヲ附ジテ面白カラサルモノト認メ、甲珓塗ハ酒造用ニハ不適當ト認ム。

## 四、パーチメント紙張圍桶使用清酒貯藏價值並ニ其ノ接合劑ノ比較研究

清酒貯藏ニ用ユル在來桶ノ缺點タル桶癖ノ移香吸收ニヨル缺減防止ノ目的ヲ以テパーチメント紙(日高紙業株式會社製)ヲ桶内面ニ張り清酒貯藏試驗ヲ大阪稅務監督局發案ノ下ニ平松酒造場ニ於テ實行シタル結果、八月頃マデハ佳良ノ成績ナリシ如キモ、其後同酒造場風害ニテ倒レ調査資料ヲ失シタリ。然カシ其ノ接合法未タ不完全ノ嫌アルヲ以テ、其後接着劑ニ付試驗ヲ爲シタルニ其ノ成績下記ノ如シ。

(イ) カザイン一瓦ヲ水二蚝ニ浸シ約十分後其ノ膨脹セル頃一〇%苛性曹達一蚝ヲ加ヘヨク攪拌溶解ス。此ノ際加熱スレバ溶解シ易ケレドモ其後ノ接着力弱シ。

(ロ) 「カザイン」二〇瓦、消石灰三瓦、磷酸曹達二瓦

右ノ配合ニテ造ルモノナレドモ、此ノ場合ノ「カザイン」ハ六〇目通シテ用ヒ消石灰、磷酸曹達ハ豫メ播碎シ篩過使用ス先ヅ「カザイン」一〇瓦ヲ水三〇蚝ニ浸シ之ニ磷酸曹達ヲ加ヘテヨク攪拌シ全ク溶ケタル後、消石灰ヲ加ヘ接着劑トシテ用フ。之ハ作業生命短キ缺點アリ。

(ハ) 「カザイン」五瓦、乾燥卵發五瓦、消石灰二瓦、磷酸曹達一・五瓦

右ノ配合ニ於テ先ヅ「カザイン」二一瓦ノ「磷酸ソーダ」ヲ加ヘ一〇蚝ノ水ニ溶解シタル後(溶ケ惡キ場合加熱ス)冷却ス。別ニ乾燥卵白ニ五蚝ノ水ト〇・五瓦ノ磷酸曹達ヲ加ヘヨク攪拌スルニ卵白固塊トナリ溶ケ惡キヲ以テ猶水二〇蚝ヲ加ヘ溶解シ、前記「カザイン」液ト混合シ消石灰ヲ加ヘテ接着劑トス。之モ作業生命頗ル短ナリ。

(ニ) カザイン一〇瓦、消石灰三瓦、五%苛性曹達一〇蚝、水硝子五瓦、水二〇蚝

右配合ヲ用ヒ先ヅ「カザイン」ニ水二〇蚝ト苛性曹達液ヲ加ヘテ溶解後消石灰ヲ加ヘ最後ニ水硝子ヲ加フ。

(ホ) 「カザイン」一〇瓦ヲ一%苛性曹達四〇蚝ニ溶解シパーチメント紙ノ一面ニ塗り、他二二%ホルマリン液ヲ塗布シ兩者ヲ接合ス。

以上五方法ヲ比較スルニ(イ)法ハ接着シタルモノヲ一週日放置シタル後、水ニ一時間浸ス時ハ無抵抗ニ離ル。(ロ)法ハ接着後數日ニシテ試味スルニ、アルカリ性強シ。依テ本法ニテハ燐酸曹達ノ使用量ヲ可成的少量トシ、「カサイン」ノ溶解スル程度トセバヨカラシモ、水ニ浸シ一晝夜後檢スルニ、難レ易ク然カモ作業生命短ナリ。(ニ)法ハ(ロ)法ニ水硝石ヲ混和シテ作業生命ヲ長クシタルモ「アルカリ性強クシテ不可。(ハ)法ハ(ロ)法ニ乾燥卵白ヲ加ヘタルモノニテ接着力強ク水ニ浸シタル後ノ接着力モ相當強ク、清酒ニ浸シ一ヶ月後ノ接着力モ相當大ナリ。以上(ロ)、(ハ)、(ニ)法ハ「カザイン石灰」トシタルモノナレドモ石灰ノ粹碎程度若クレバ未化合物多クシテ不可ナリ。(ホ)法ハ(ロ)、(ハ)、(ニ)法ヨリ接着力強ク浸漬後ノ夫モ亦優ル。以上ノ内、有望ナルハ(ハ)法ニシテ其ノ缺点ハ作業生命ノ弱キニアルヲ以テ、今少シ液濃度ヲ低下スルカ他ノ藥品ノカニテ其ノ生命ヲ長クスル工夫ヲ要ス。

(ホ)法ハ接着後「フォルマリン」ノ遊離スル点懸念サル。

(ハ)、ゼラチン接着劑、ビユコース接着劑、硝化綿接着劑等ニ付テモ研究セシモ、結果面白カラズ茲ニ報告ヲ省畧ス。

### 五、カプリン酸及フェニールエチルアルコールノ清酒防腐力研究

兩者ニ就テ清酒防腐力ヲ試験シタルレドモ火落菌ノ存在ニ於テハ火落ヲ幾分遲滯セシムルノミニシテ絶對的ニ非ス、何レモ其ノ添加ニ依テ香氣ヲ損スルコト甚シ。

### 六、柿澱製法ノ比較研究

酒造用柿澱製法ノ相異ニ依ル主成分タンニン酸ノ比較研究ヲ爲シタルニ成績下記ノ如シ。

記號	製	法	收得量	粕	タンニン酸 %	比較數
(イ)一	澱柿五〇〇匁ヲ臼ニテ碎キ其ノマ、搾ル		四合		一一・四	四五・六
(イ)二	右ノ粕ニ水一升ヲ入レ一晝夜後搾ル		八・三合		二〇・二八	二・三

(ロ)一	澱柿ヲ碎キ五〇〇匁ニ水一升入レ一晝夜後搾ル		一一・〇合		一一・五〇	一八・〇
(ロ)二	右ノ粕ニ水一升入レ一晝夜後搾ル		八・〇合		一一・〇匁	〇・九六
(ハ)一	澱柿ヲ採取後一日置キテ臼ニテ碎キ其ノマ、搾ル		三・〇合		三・五〇匁	一三・〇〇
(ハ)二	右ノ粕ニ水一升ヲ入レ一晝夜ノ後搾ル		一・〇〇合		一一・〇匁	〇・三四
(ニ)一	澱柿五〇〇匁ヲ碎キタル後水一升入レ二時間後搾ル		九・五合		四〇〇匁	一〇・八
(ニ)二	右ノ粕ニ水一升ヲ加ヘ一晝夜後搾ル		一・〇〇合		一一・五〇匁	〇・五四

即チ(イ)法最良ニシテ(ニ)法最モ惡シ。又澱柿採取後日ヲ經ルニ連レテタンニン收得量減少スルコトハ(イ)(ハ)ノ比較ニ依テ明白ニシテ、古來柿ヲ取リタル日ニ搾ル理由ヲ明白ニセリ。又柿澱ノ澱香ハ柿澱中ニ或種ノ細菌ノ發育シタル後ニ認メラル、モノニシテ、一種ノ乳酸菌類似菌ガ生スル香ニシテ、柿本來ノ香ニ非ザルモノト思考サル。

### 七、火災ニ依ル酒造用水變化ノ研究

海南省山西友次郎氏酒造場火災ノ結果、附近ノ井水異變ヲ來タシタルヲ以テ、附近ノ井水十數点ニ付キ調査シタルニ、火災即後ニ白濁シ腐敗臭高ク、中心ヲ遠ラカルニ連レ一ヶ月位ニテ清澄ニ歸シタルレドモ其ノ腐敗臭ヲ留メ、飲用シ得ルニ至リシハ少クトモ三ヶ月ヲ要シタリ。中心地ニ接近セル山西幸四郎氏ノ酒造用水ハ終ニ昭和九酒造期ニ使用ニ堪エザリキ。其ノ成分上變化著シキハ有機物ニシテ、火災前有機物過滿飽和量消費量ニテ三六匁ノモノガ即後ハ二三匁ニ達シ其後澱澱數回ニ及フモ仲々減少セズ、一〇匁以下ニ達スルニ少キモノモ三ヶ月ヲ要シタリ。然カモ降雨ノ都度有機物増加シ時々一〇匁ヲ超過シ、山西幸四郎氏ノ井水ハ遂ニ使用シ得サルニ至レリ。有機物増加ノ原因ハ清酒七百餘石ノ流出地下ニ滲入セルニ因ルモノニシテ、古來火災後ノ酒造用水ハ三年ハ使ヘヌト云フモ理ナリ。然カシ井戸ノ構造宜シキ出火元ノ井水ハ一回モ濁ルニ至ラス酒造用ニ供シ得タルハ珍トスベキモ、亦酒造場ノ井戸ノ構造ヲ入念ニスル必要ヲ示スモノト云フベシ。



### 八、濃醇酒研究ノ内半田式四段仕込ノ再調査 (前年度報告参照)

市内井關熊之助氏酒造場ニ於テ三田村技師指導ノ下ニ題記ノ試験ヲ四本行ヒタルニ普通四段仕込ヨリ香氣ヨク四段臭ヲ有セズ濃甘口酒ヲ得タリ。参考ノ爲其ノ分析表仕込配合、製成歩合ヲ示セハ左ノ如シ。

#### 分析表

比重	一・〇一七	清酒メーター(一)二五・二、酒精一八・二、総酸〇・一五八三
エキス	一〇〇・〇、原エキス三九・四	

#### 製成歩合

清酒歩合一・三七七、粕歩合八・六二七、醪歩合一・五五六、垂歩合〇・八八五、汲水歩合〇・八九八

#### 仕込配合

酒母	初添	仲添	留添	追留	計	
蒸米	〇・五五〇	一・〇〇〇	二・〇〇〇	二・七〇〇	一・二九〇	七・五四〇
麴米	〇・二五〇	〇・三五〇	〇・五五〇	〇・六〇〇	—	一・七五〇
汲水	〇・七〇〇	一・〇〇〇	二・四〇〇	四・二五〇	—	八・三五〇

### 九、落柿利用法研究

第一、柿粥狀汁ノ製法。落柿九二〇匁ノ「セタ」ヲ除去シ壓搾器ニテ壓搾シタレドモ空氣入りテ搾リ充分ナラズ、依テ一晝夜放置後「ガーゼ」ヲ用ヒテ手搾リトシ、節過シ種皮ヲ除キ柿粥狀物ヲ得タリ。其ノ收得量實績下ノ如シ。

#### 落柿使用量

一貫匁

六錢六厘 (但シ十二貫八十錢)

#### 柿粥狀汁

五百五十匁

#### 種

十六匁四分

#### 皮

百九十五匁

#### セタ

二百三十三匁

右成績ヨリ柿粥狀汁一貫匁ノ價格ヲ計算セズ十二錢トナル。但シ「セタ」種皮ハ無價値トシテノ計算ナリ。

### 第二柿ヂヤムノ製造試験

#### 原料配合

柿粥狀汁 一貫匁

砂糖 一貫匁

#### 酒石酸

二〇瓦

ゼラチン 二〇瓦

スカーレット染料 一瓦

製法 柿粥一貫匁ニ白糖一貫匁ヲ入レヨク溶カシ、更ニ酒石酸二〇瓦ヲ入レ酸味ヲ附シ重湯煎上ニ蒸發濃縮シ、此ノ際ゼラチン二〇瓦ヲ入レ粘度ヲ増シ、染料一瓦ヲ入レ「イチゴヂヤム」ト同シ程度ニ着色ス。其ノ收得量一貫七百匁ナリ。

#### 原價計算 (工賃ヲ除ク)

柿粥汁	一貫匁	六錢六厘也
白糖	一貫匁	一圓十八錢也
酒石酸	二〇瓦	六錢三厘也
スカーレット	一瓦	九厘也
燃料代石炭	三斤	三錢也
ゼラチン	二〇瓦	六錢二厘也
計		二圓十一錢也

右ニ依リヂヤム一貫匁一圓五十錢七厘也

右製品ハ柿臭ヲ有シ滋味ヲ稍感ス。味旨キモ「イチゴヂヤム」ヨリ稍劣ル。原價モ高ク市販品トシテハ如何カト思ハル。

### 第三柿酢製法研究

(イ) 酒精併用柿酢製法研究

仕込 配合 柿粥 一二〇匁 種酢 一合五匁 酒精八・四%液 四合  
右配合ニテ常法ノ如ク仕込ミ室温ニ放置スルコト九〇日余ニシテ製造ヲ終ル。其ノ收得量七合也。  
原價計算

柿 粥 汁	一貫匁	六錢六厘也
種 酢	一升二合五匁	七錢五厘也 (一升六錢)
酒精八・四%	三升三合	八錢九厘也 (丁度一升三錢五厘トス)
計	五升八合五匁代	二十三錢也
酢 (四・三七五%)	一升代	四錢也

(ロ) 酒精無添加柿酢製法研究

仕込 配合 柿粥汁 四合、白糖 四九匁、水三合五匁、酒石酸 二瓦  
右ノ割合ニ仕込ミ之ニ清酒酵母一〇匁ヲ入レ、生産炭酸瓦斯ハ除去サル、モ空氣ハ入ラサル様ニナシテ密閉醗酵ヲ約三十日室温一七一〇度ニテ行フ。此ノ時液ヲ檢スルニ甘味殆ドナク辛味ヲ生シ柿臭ヲ伴ヘル生葡萄酒ノ如キモ到底柿酒トシテ單獨ニハ賣レサルベケレドモ味ヲツケ甘味柿酒トセバ販賣ニ供シ得ヘキモ、今次ハ其ノ研究ヲ放棄シテ之ニ種酢一合ヲ加ヘ酢ヲ造レリ。種酢混和後九〇日余ニテ錯酸醗酵停止シ製酢ノ目的ヲ達シタリ。酢收得量七合三匁也。

原價計算

柿 粥 汁	一貫匁	六錢六厘也
白 糖	二百十匁	二十九錢二厘也
酒石酸(一ポンド一圓四十錢)八・四瓦		二錢六厘也

種 酢 四合一匁 二十四錢六厘也

酢 收得量 三升一合代 六十二錢八厘也

種 酢 (五・七%) 一升代 二十錢七厘也

(ハ) 柿粥汁ノミノ食酢製法研究

仕込配合及原價計算

柿 粥 汁	一貫匁代	六錢六厘也
酒 石 酸	八・四瓦	二錢六厘也
種 酢	四・一合	二十四錢六厘也
水	一升四合五匁	
收得量 (四・五%)	三升一合七匁	三十三錢二厘也
一升原價		十錢五厘也

先ヅ柿粥汁ニ水ト酒石酸ヲ入レ酵母ヲ加ヘテ密閉醗酵ヲ一ヶ月爲シ、後種酢ヲ加ヘテ室温ニ放置スルコト九〇日余ニテ醋酸化ス。

以上三種ヲ比較スルニ左ノ如シ。

總 酸	(イ) 四・三七五	(ロ) 五・七	(ハ) 四・五
エ キ ス	四・一四一	七・八四二	七・〇六
感能順位	三	一	二
一升原價	四錢	二十錢七厘	十錢五厘

(イ)ト云ヘドモ市販品ト比較シテ僅ニ柿臭アルノ外遜色ナク、雜質豊吉氏ハ賣レルト折紙ヲ附ケタリ。即チ落柿ヲ用ヒテ酢ヲ造ルニハ(イ)法ガヨロシ。猶工業化スルニハ今少シ大規模ノ試験ヲ要スベシ。

一〇、火落豫知法ノ研究

昭和六年以降毎年火落豫知法ニ關シ温室檢酒法ト火落菌營養物添加法ニ付キ比較研究セルニ、實用價值トシテハ温室檢酒法優レタルモノト認ム。

一一、圍桶手入改良法ノ研究

廣島稅務監督局鑑定部發表ノ圍桶手入ニ「オキシフル一〇液塗布法ヲ本酒造期ニ數ケ所ニ於テ實驗セシメタルニ、桶樽ノ曝シ方宜シク手入工數ヲ省畧シ得ヲ可ナルモノト認ムレドモ圍酒ノ成績ハ未ダ判然セズ。

一二、圍桶外面ニ錫紙張ノ貯藏ニ及ボス影響研究

市内某酒造場ニ於テ圍桶外面ニ錫紙ヲ一面ニ張り貯藏セルニ、其ノ結果缺減僅カニ少キ如キモ、別ニ酒質ニ好影響ヲ及ボスモノトハ認メ難シ。

一三、等低温麴ト常法麴トノ比較研究

昨年度報告ニ示セル如ク等低温麴ノ力ニ於テハ常法ト異ル所ナキガ如キモ、生スル酒ガ照リニ於テ常ニ安全ナラズ時ニ照リヨク時ニ照リ悪シキ結果ヲ來タス点ヨリセバ力ニ缺クル所アル如ク、粗白米ニハ特ニ不安ヲ感ゼシム。

一四、清酒調熟速進法ノ研究

昨年度ニ引キ續キ本項ニ付キ生原式ヲ用ヒテ實驗スル豫定ナリシモ其ノ機ヲ得ズシテ未了トナレリ。

一五、中ノ島井水ノ酒造價值研究

本場ノ探索ニ依テ得タル中ノ島方面ニ湧出スル指定井水ヲ市内數酒造場ニ使用セシメタルニ、酒母仕込用トシテ適當ナ

ルモノト認ムルモ、甘口醸造ニハ強キニ過グルガ如ク、特ニ汲ミ置ク時多少白濁ノ嫌アリ。濾過使用スルヲヨシトス。

一六、左ノ各項ハ本年度研究完了セズ來年度繼續研究スルコトトス

- (イ) 酒母枯ラシ期間ト分ケ時ノ母氏度數生酸度トノ關係研究
- (ロ) 醱酵低温早開ニ必要ナル條件研究
- (ハ) 安價留醬油製成法研究
- (ニ) 大豆、小麥分別製麴試驗
- (ホ) 清酒ニ金コロイドノ防腐力應用研究
- (ヘ) アミノ酸添加醬油仕込試驗

三、依頼試驗

件名	件數	點數	件名	件數	點數
酒造用水分析	七六	一五一	清酒濁濁原因調査	一	一
清酒分析	二六	五〇一	清酒中ノ「サルチール酸」定量	六	八三
火落豫知試驗	一四	一・二三一	清酒鑑定	三〇	一五六
乳酒中酒精定量	一	一	清酒中防腐劑有無鑑定	三	四
清酒火落有無鑑定	二	二	朝鮮酒酒精定量	二	四
燒酎糲穀臭除去試驗	一	一	清酒脫色試驗	五	一三
清酒割水耐久力試驗	二	一八	朝鮮酒膠分析	一	一

種 麴 鑑 定	一	一
清酒麴 鑑 定	二	二
酒造用水醱酵試験	四	八
清酒醪 分 析	八	二四
酒 母 分 析	一〇	一五
醬 油 分 析	一五	三三
醬油諸味鑑定	五	六
グルシン鑑定	一	一
醬油諸味分析	五	二四

風水害食塩ノ分析	五	五
カラメル試験	一	一
澁袋良否鑑定	一	一
アミノ酸分析	三	三
ワンダブリユ人工甘味質鑑定	一	一
酢ノ分 析	一	三
米酢濁濁原因調査	一	一
比志保製法調査	一	一
落柿利用法試験	一	一
計	一三七	二〇四

四、質 疑 應 答

件 名	件 數	点 數
清酒分析法ニ就テ	一	一
清酒ノ市價ニ就テ	一	一
サルチール使用法ニ就テ	一	一
潮カブリ未製麴ニ就テ	一	一
パーチメント紙ノ罎桶へ張ル方法ニ就テ	一	一

件 名	件 數	点 數
罎桶ノ徴除去法ニ就テ	一	一
麴室ノ構造ニ就テ	一	一
醗糧ノ大サニ就テ	一	一
酒庫ノ設計ニ就テ	一	一
清酒濃度ニ就テ	一	一

件 名	件 數	点 數
活性炭使用法ニ就テ	二	二
冷蔵酒ノ瓶詰ニ就テ	一	一
冷用酒ニ就テ	一	一
清酒火落原因ニ就テ	一	一
辛口酒釀造法ニ就テ	一	一
仕込庫ノ窓ニ就テ	一	一
醗用棒糧ノ寸法ニ就テ	一	一
某酒造場酒ノ改良法ニ就テ	一	一
四段仕込方法ニ就テ	一	一
柿澁ノ濃度ニ就テ	一	一
夏期桶手入ノ可否ニ就テ	一	二
サルチール酸ニ就テ	一	一
混凝土製酒槽ノ上塗ニ就テ	一	一
サルチール酸定量法ニ就テ	二	二
メチールアルコールガ清酒中ニ存スルヤ	一	一
某酒造場改良ノ要点ニ就テ	一	一
仕込配合法ニ就テ	四	四
本年ノ火持状況ニ就テ	一	一
檢 酒ニ就テ	一	一

件 名	件 數	点 數
火落酒ノ手當ニ就テ	一	一
パーチメント紙ニ就テ	一	一
酒造場煙突ノ構造ニ就テ	一	一
滿洲米處理法ニ就テ	一	一
活性炭脱色時澁下ケノ利カサルモノヲ透明トスル方法	一	一
冷用酒醗酵ノ原因ニ就テ	一	一
酒庫火事跡土ノ使用可否	一	一
酒造用井戸ノ深サニ就テ	一	一
酒粕酸敗救劑法ニ就テ	一	一
火事跡工場ニ生ヘタル徴ニ就テ	一	一
清酒冷蔵温度ニ就テ	一	一
酒麴ノ破精込ニ就テ	一	一
「クリン」ニ就テ	一	一
酒質ト汲水ニ就テ	一	一
水 質ニ就テ	一	一
錫張タンクニ就テ	一	一
清酒炭酸瓦斯飽和ト殺菌力ニ就テ	一	一
杜氏ノ件ニ就テ	一	一
滿洲國へ酒出荷上ノ注意ニ就テ	一	一

堅型精米機ニ就テ	四	四	清酒ノ濾過法ニ就テ	一	一
滿洲國ノ水質ニ就テ	一	一	酒造用水ノ濾過ニ就テ	二	二
仕込配合ト仕舞量ニ就テ	一	一	清酒中ノ酒精定量法ニ就テ	一	一
三割以上割レル清酒ノ仕込配合ニ就テ	一	一	清酒火入溫度ニ就テ	一	一
煉瓦建酒造庫ニ就テ	一	一	澁引桶ニ就テ	一	一
竈ノ位置ニ就テ	一	一	大豆加壓罐使用法ニ就テ	一	一
煙突ノ高サト太サノ吸引力ニ就テ	一	一	汲水ト塩度ニ就テ	一	一
役米ト掛米ノ精白度ニ就テ	一	一	アミノ酸ノ使用方法ニ就テ	一	一
仕込庫ノ仕切ニ就テ	一	一	醬油百石釀造ニ就テ	一	一
酒造用水槽ノ材料ニ於テ	一	一	醬油工場設計ニ就テ	一	一
全部新式酏トスル可否	一	一	芥子油ノ使用法ニ就テ	一	一
火落酒ノ火香除去法ニ就テ	一	一	合成醬油ニ就テ	一	一
清酒割水法ニ就テ	一	一	ソース製法ニ就テ	一	一
清酒鑑定成績ニ就テ	一	一	搾リ槽ヲ醬油ト酏トニ兼用ノ可否ニ就テ	一	一
本年度酒造用米質ニ就テ	二	二	龜甲寶商標所有者ニ就テ	一	一
連釀酏ニ第五號酵母添加可否ニ就テ	一	一	アミノ酸ノ總窒素ニ就テ	一	一
連釀酏配合法及育成上ノ注意ニ就テ	一	一	醬油麴手入時冷却程度ニ於テ	一	一
酒造用水ニ就テ	七	七	脫苦劑ニ就テ	二	二
酒造用水ノ有機物定量法ニ就テ	一	一	無塩醬油製法ニ就テ	一	一

五、出張

醬油鞠ノハゼ込ニ就テ	一	一	酢ノ製法ニ就テ	一	一
醬油醱糖分減少ノ原因ニ就テ	一	一	比志保製法ニ就テ	一	一
「カラメル」ニ就テ	一	一	朝鮮松ノ實ノ用途ニ就テ	一	一
アミノ酸ノ製法ニ就テ	一	一	吟釀酏分ケ時期ニ於テ	三	三
番醬油苦味發生原因ニ就テ	一	一	冷込傾向醱ノ手當法ニ就テ	四	四
落柿酢製法ニ就テ	三	三	計	一一〇	一一〇

一、實地指導

清酒實地指導	一七五日 (内市内六十九日)
醬油實地指導	一六日 (内市内六日)

二、視察及事務打合ノ爲ノ縣外出張

縣外視察	八日
事務打合品評會	六日

六、講習講話研究会並ニ座談會

名	稱	場	所	月	日	參加人數
酒造	研究會	下津、大阪、和歌山		五月十日	六月二十日	
				八月二十九日	十二月五日	

酒造座談會	粉河藤崎	六月二日		
酒造杜氏研究會	粉河、山崎村 和歌山江井ヶ島	八月四日		
酒造講習會	西牟婁郡新庄村	十二月十四日	一月十一日	
醬油研究會	湯淺(一)田邊、和歌山	自七月三十一日	十二月十日	
酒造講話會	田邊、和歌山、粉河、御坊	至八月四日		
		六月十三日	八月八日	
		十月二十五日	十二月十二日	
		十二月六日	十二月十三日	
		十二月十四日	十二月廿三日	
		一月十九日		

九二

### 七、品評會

名	稱	會場	期日	出品點數
本場主催第三回	和歌山縣清酒品評會	本場	自十一月八日	一二三
和歌山酒母麴品評會	本場	自十一月十六日		
第七回紀南清酒品評會	御坊 稅務署	本場	一月十九日	各三〇
第三回和歌山酒造組合品評會	伊那酒造組合品評會	本場	自三月六日	一二八
第二六回和歌山縣清酒品評會	粉河 稅務署	湯淺	自三月十一日	一一三
			自三月十二日	
			自三月十六日	二八七
			自三月廿三日	

第七日 和歌山縣醬油品評會

湯淺 自三月十三日 至三月廿三日

一五七

### 八、視察

一、酒造視察	視察場所	主催	期日	參加者
	新潟縣來迎寺村及長岡町	和歌山酒造組合聯合會	自一月五日	二六人
	兵庫縣江井ヶ島	伊那酒造組合	一月七日	
一、醬油視察	視察場所	主催	期日	參加者
	岡山縣倉敷在酒州及玉島町	紀伊醬油組合	一月十一日	二〇人
			十一月二十五日	一六人

### 九、清酒酵母配布高

本年度清酒酵母ノ配布高 一三九配分

### 一〇、記錄配布

(一) 第二十五回和歌山縣清酒品評會出品酒分析表

- (二) 第三回和歌山縣秋季清酒品評會分析表
- (三) 新潟地方清酒視察報告書
- (四) 三重縣醬油工業組合視察報告書
- (五) 岡山縣地方醬油視察報告書
- (六) 紀伊醬油組合第二部醬油巡迴指導批評
- (七) 品評會清酒出品方法ニ關スル注意書

二、來 場 者

八六七名

第四章 漆 器 部

## 漆器部

### 一、縣下漆器業ノ概況

本縣下ノ漆器ハ和歌山縣工業試驗場漆器部ノ所在地タル海南市ヲ以テ主要産地トス。

昭和九年五月一日海草郡黒江町、日方町、内海町ノ三町ト大野村ノ一村ヲ合併シ、市制ヲ實施セラレ海南市トナルニ至リタレバ、主産地タル黒江町、日方町ハ海南市ノ地域内ニ包含セラレタルナリ。

然シテ本年度ニ於ケル該漆器ノ概況ハ前年度ト大差ナク、久シキニ亘ル當業ノ不振ハ産額數量ニ於テ飛躍的ナル成績ヲ見ルコト能ハズシテ採算困難ノ状態ヲ以テ終始セリ。

殊ニ四月初旬ヨリ夏期七、八、九月ニ至ル期間ハ最モ經營ニ困難ナル時期ニシテ、賣行不振ノ爲自發的ニ繰業短縮セントスル製造家アレドモ、資金不足ト製品ノ長期保存ノ困難ナル故ニ投資スルモノ多ク、爲ニ市價著シク低落シテ苦境ニ立テリ。又最モ多忙ナル十、十一、十二月ハ例年ニ比較シ稍々豫想通りノ結果ヲ得タリ。

要スルニ本年度ノ景況ハ前年度ノ延長トモ稱スベキモ、一般的ノ材料高ニ依ル結果ハ生産額ニ於テ約一割強ノ増額テ見タルモ、工賃ニ於テ依然トシテ増率ヲ見ザリキ。

翻テ生産品種ノ動向ハ食器道具類(會席膳、重箱)ヨリ漸次進物用具(主トシテ盆類ニシテ贈答用品トシテ利用セラレルモノ)ニ變遷シツ、アリ。特ニ其ノ顯著ナルモノトシテ最近市場ニ進出ヲ見タルハ夏向漆器ニシテ夏期ニ不向ナル漆器ヲシテ之レガ研究ト指導ニ當リタル結果ニ依ルベク、コノ發展ハ夏期ノ閑散ヲ救フ一助トモナルベシ。

尙前述ノ進物用漆器ハ意匠嶄新ニシテ優美ナル体裁ヲ生命トスルモノナルヲ以テ、之レガ意匠形態ノ改善ニ一層努力シツ、



アリ。又家具、道具類ハ實用品ニシテ堅牢ナルヲ第一條件トスベキヲ以テ粗製濫造ニ陥リツ、アルヲ大イニ考慮シ、紀州漆器同業組合ニ製品ノ検査ヲ嚴重ニナサシメルト共ニ、當業狀態ニ即シタル製品ノ改良ニ付キ技術的研究ヲ續行シツ、アリ。特ニ數年來ノ生産過剩ヲ緩和スル一方策トシテ輸出向漆器ノ振興策ヲ考究シ、廣ク販路ヲ海外ニ求メルベク一般業者ト緊密ナル連絡ヲ保チ、以テ之等ノ計劃ヲ遂行ニ努メツ、アリ。

殊ニ先年度ヨリ商工省ニ於テハ之レガ工藝振興計劃ニ關シ補助費ノ交附アリテ其ノ氣運ヲ更ニ助長シ、特ニ本年度ヨリ意匠圖案ニ關スル專任指導技術員ヲ當縣工業試驗場漆器部ニ設置シ其ノ任ニ當ラシムル外、試作品展覽會ノ開催、講習、講演會等ノ開催、工藝品ノ見本製作、海外見本品ノ配布、各種展覽會出品等試驗研究並ニ指導獎勵ニ努力シツ、アリ。當業者ノ試驗場ヲ利用シ斯業ノ向上ヲ計ラントスルモノハ益々増加シ、其ノ實績ヲ收メツ、アルハ誠ニ欣幸ニ堪ヘザル所ナリ。

## 二、自發試驗研究

### (一) 紀州彫漆器ノ創作研究

前年度ニ引續キ彫模樣ヲシテ刀ノ運行ヲ考慮シ、比較的簡易ニシテ一層効果的ナル圖樣ヲ施シ塗裝ニ於テモ各種顏料、油漆料等ノ使用ニヨリ内地向キトシテ趣味豊カナル試作品ヲ得タリ。應用範圍廣ク當業者一般ニ普及セリ。

### (二) 塗立ト同時ニ種々ナル模樣ヲ表現セシムル方法ニツキ

前年度ニ引續キ主トシテ紋樣ヲ表現セシムル技術及塗裝用刷毛ノ考究ト數種ノ漆ヲシテ完全ニ流動平滑ニ乾燥セシメ、然モ光澤ヲ損セザル塗裝方法ニ依リ斬新ニシテ大衆的ナル塗立變り塗ヲ得タリ。尙廻轉機ニ不備ノ点アルヲ以テ引續キ之レガ改良ニ努メツ、アリ。

### (三) 編縁應用塗飾ノ研究

夏向キ漆器トシテ適應セル形狀、色彩、及用途ニ意ヲ注ギ、盆類、盛鉢等新規ナル内外向キ漆器試作品ヲ得タリ。當業盛ンニ之ヲ製作化シ市場ニ於テ好評ヲ博シツ、アリ。

### (四) 塗立ニ於ケル彩漆助成要素ト漆液トノ研究

當地塗立塗裝ニ於テハ彩漆其ノ數ニ乏シク、輸出向キトシテ不利ナル点多キヲ以ツテ、發色鮮明ニシテ然モ褪色シ難キ漆ヲ得ンガ爲メ之レガ要素タル顏料或ハ油染料等ノ割合割合及ビ漆液ノ良否、乾燥ノ遲速等ノ之レニ及ボス影響等ヲ比較研究セル結果、種々ナル中間色彩漆ヲ得タリ。内外向キトシテ業者間ニ之レヲ利用スル者多シ。

### (五) 瓦斯ストーブニ依ル塗漆乾燥試驗

冬期上塗室用トシテノ從來ノストーブニ代フルベク瓦斯ストーブヲ使用シタル結果、操作簡便ニシテ塵埃皆無併セテ火氣ノ安全ヲ期スルコトヲ得タルモ、輕微ナル不燃性瓦斯ノ發生ニヨリ漆液乾燥ヲ稍遲延セシムル憂ナシトセズ、依ツテ排氣裝置或ハ室内保温設備等ニ關シ本年冬期ヲ待つテ引續キ試驗ヲ施行セントス。

### (六) 廻轉塗裝機ノ研究

主トシテ上塗用ヲ目的トシ取付ケ、操作等ノ簡便廻轉數ノ調節、器物ト機械ノ重量トノ關係等ヲ考慮シテ研究、試作セシニ結果良好ニシテ種々ナル變り塗、塗裝ニ試用セリ。尙器物ノ取付ケヲ容易ナラシムル爲テチャック式ヲ採用シ引續キ考究中ナリ。

### (七) 色繪研出ノ試作研究

可及的簡易ナル方法ニ依リ八雲塗ニ擬シタル色繪研出シノ研究ニシテ、新味アル大衆向キノ試作品ヲ得タリ。當業者盛ニ之ヲ應用シ製作シツ、アリ。

(八) 漆器圖案ノ研究試作

内外向キ漆器ノ圖案ニ於ケル形狀、色彩、意匠等ヲ考究試作シタル結果、斬新ニシテ然モ近代のナル多様ノ圖案ヲ得タリ  
依ツテ之ヲ内外向キ漆器トシテ製作化シ、各種展覽會ニ出品スルノ外、直接業者ニ依ツテ商品化サル、等好成绩ヲ收メツ  
、アリ。

三、工藝指導ニ關スル事項

(一) 專任職員ノ設置

本縣ノ工藝品ハ其ノ意匠、形態拙劣ナル点多ク、之ガ爲其ノ業績振ハズ、殊ニ輸出向製品ニ於テハ其ノ傾向甚ダシキヲ以  
テ本年度ヨリ工藝意匠圖案ニ關スル專任指導技術員ヲ當部ニ置キ、漆器、日傘、シール、再織、其ノ他一般工藝品ノ意匠  
圖案ノ改善及新規意匠圖案ノ依頼製作ニ應ジ、又ハ實地指導、質疑應答、或ハ意匠、形態ノ圖案集ノ配布等輸出工藝品ノ  
新規意匠圖案ノ指導啓發ニ努メシム。

(二) 試作品展覽會ノ開催

一、近畿六府縣輸出向工藝試作品展覽會

イ、主催 近畿六府縣市及開催地商工會議所ノ聯合

ロ、目的及趣旨

本邦輸出向工藝品ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トナシ、近畿六府縣聯合輸出向工藝試作品展覽會ヲ開催

ハ、會期及會場

會 期 昭和九年十一月一日ヨリ五日間

會 場 京都市岡崎公園大禮記念京都美術館

ニ、出品ノ種類及其ノ概數

種目	命題	數量	備考	種目	命題	數量	備考
漆器	白粉入	五個	各種	漆器	フルーツセット	八個	一組
同	両切巻煙草入	一個		同	菓子盛器	一個	
同	葉巻入	二個	各種	同	灰	一個	
同	チヨコレート入	一個		同	ハンカチ入	一個	
同	手袋箱	一個		同	ビスケット入	一個	
同	砂糖入	四個	各種	同	小	一個	
同	食塩入	一個		同	ビ、ン	一個	各種
同	フィンガーボール	三個	各種	同	トランプ入	二個	同
同	ベ、ン	一枚		同	小判形器	二枚	一組
同	楕円形編縁器	三枚		同	食、形器	二枚	一組
同	楕円形器	一枚		同	食、味器	三枚	一組
同	楕円形器	一枚		同	藥、味入	一個	
同	長手器	一枚		同	煙草入	一個	
同	食、器	一個		同	クツシヨ、ン	一枚	
同	スモールキヤンドル	一個		計		三六六	点

種目	命題	數量	備考
漆器	卷煙草セット	一組	
	インクスタンド	一組	
	髭剃具	一組	
	卷煙草	一個	
	婦人用	一個	
	手袋	一個	
	煙草	一個	
	八角形粉	一個	
	白八角形粉	一個	
	両切卷煙草	一個	
	ボンボン	一個	
	白粉	一個	
	貝編付器	一枚	
	食編付器	一枚	
	藤編付器	一枚	
	食編付器	一枚	
	櫛円形器	一枚	
	食器	一枚	
	長手器	一枚	
	食器	一枚	
	化粧台	一枚	
	同	各種	

種目	命題	數量	備考
日傘	八寸	二本	
	八寸	一本	
	八寸	一本	
	八寸	一本	
	更紗	一本	
	六寸	一本	
	六寸	一本	
	紙六寸	一本	
	紙六寸	一本	
	モールカーテン	一本	
	再織	一本	
	卓織子	一本	
	チニールカーテン	一本	
	チニールカーテン	一本	
	テーブルセンター	一本	
	テーブルセンター	一本	
	シミレイン	一本	
	ブラッシー	一本	
	フランケット	一本	
計		二六点	

二、輸出向工藝漆器試作品及圖案展示會

イ、主催 和歌山縣工業試驗場

ロ、目的及趣旨

輸出工藝品ノ意匠ノ改善ト其ノ製作獎勵ノ目的ヲ以テ地方當業者ニ獎勵金ヲ交附シ、汎ク試作品ヲ募集シ、之レガ  
 批判並ニ審査ヲ行ヒ其ノ改善ヲ促スト共ニ之レガ優秀品ノ展覽會ヲ開催シ、同時ニ當部試作品及圖案ヲ展示シ以テ  
 輸出工藝ノ振興ヲ徹底ヒシメ、一般ノ工藝思想ノ普及ヲ圖リ其ノ鑑識ノ向上ヲ策セントス。

會期 昭和九年十二月十五日ヨリ三日間

會場 和歌山縣工業試驗場漆器部 (海南市)

ニ、應募作品

品名	數量	備考
懸崖花生象花臺	一個	
臺板側竹張	一枚	
卷糞入セット	一組	
手桶形	一個	
花生象果物盛	一個	
菓子鉢	一個	
金地ハイブ	一個	
金地ペン軸	一個	

品名	數量	備考
鏡台木地	二組	
尺五判盆	一組	
手穴配付形盆	一個	
軍子應用盆	一枚	
硝子應用盆	一枚	
尺二寸塗丸盆	一枚	
鏡花塗丸盆	一枚	
鏡台	二組	
計	五	各種

品名	数量	備考
鏡台	一台	
花挿台	一個	
品名	数量	備考
ハンカチーフ箱	二個	各種
チョコレート箱	二個	同
手袋箱	一個	
灰皿	一個	
砂糖箱	二個	各種
菓子盛	三個	同
六角形菓子盛	一個	
竹製シガレットセット	二組	各種
竹製インクセット	一組	
化粧台	一〇枚	各種
化粧盆	二枚	同
盆	二枚	同
フルーツセット	一組	

品名	数量	備考
計	一六六	
剃具	一組	
品名 <td>数量</td> <td>備考</td>	数量	備考
食器盆	三枚	各種
編付盆	七組	同
白粉入	二三個	同
ナフキンリング	三個	同
食塩入	三個	同
ボンボン入	四個	同
ビスケット入	二個	同
フィンガーボール	一四個	同
ペイン	六枚	同
調味入	一個	同
トラップ入	二個	各種
ピレン入	四個	同
蕘入	三個	同
スモールキャンドル	一個	
計	一二六	

五七

品名	数量	備考
品名 <td>数量</td> <td>備考</td>	数量	備考
蝶形蕘	二個	各種
卷蕘	三組	各種
丸形粉	一個	
八角形粉	一個	
白製粉	一個	
竹製	一個	
蕘	一個	
小箱煙草	三個	各種
中箱煙草	一個	
卷箱煙草	一個	
小籠綠判盆	二組	各種

ホ、展示會出品ノ種類及其ノ概數  
當業者ノ作品

品名	数量	備考
品名 <td>数量</td> <td>備考</td>	数量	備考
小判形盆	一枚	
皿形盆	一個	
文箱	一個	
インクスタンド	二組	各種
卷蕘	二個	同
婦人用木地	一個	
手袋入	一個	
チョコレート入	一個	
菓子盛	一個	
蕘子	一個	
花挿	一個	
菓子盛	二枚	各種
盆	二枚	同
計	四〇	

五六

へ、展示圖案

當場試作漆器圖案及和田三造氏ノ歐米諸國ニ於ケル工藝品圖録中、漆器ニ應用適切ナル圖案

種	目	點數	備考
漆器	圖案	九	當場試作圖案各種
陶器	圖案	五	歐米諸國ニ於ケル各種工藝品圖録中ヨリ各種
金工	圖案	八	
木工	圖案	五	
雜	圖案	三	
計		三〇	

三、商工省工藝指導所試作品展示會

イ、主催 和歌山縣工業試驗場

ロ、目的及趣旨

當地紀州漆器ハ永年輸出不振ノ狀態ニアリ、之レガ振興ニ關シ商工省工藝指導所製作ニヨル參考品ノ貸與ニヨリ展示會ヲ開催シ、意匠ノ改善、技術向上ノ資料トナシ、當地方業者ノ覺醒ヲ促進セントス。

ハ、會期及會場

會期 昭和十年三月二十一日ヨリ四日間

會場 和歌山縣工業試驗場漆器部 (海南市)

ニ、出品ノ種類及其ノ概數

貸與セラレタル參考品出陳

品名	數量	備考
茶卓子	一個	解体家具、漆塗
同	一個	同 バイブ脚
同	一個	同 丸盆
椅子	一脚	同 竹材應用
花臺	一個	竹材應用
電氣スタンド	一個	同
ビールセット	一組	同 盆一、コップ三
朝食台	一個	同 漆仕上
裁縫籠	一個	編組工藝品
瓶籠	一個	同 三本取手付
果物籠	一個	同 二本取手付
服飾用釦	二六個	ケース入漆塗
腕輪	一二個	同
鏡付化粧台	一個	梅散シ
パウダーボックス	二個	鏡付朱塗一、雲縹塗一

四、試作品ノ展覽會出品

品名	數量	備考
小箱	三個	雲縹塗一、青塗蛇皮應用一、蝶模様一
白粉入	二個	黒塗内金唐草模様、青塗アルミ蓋
調味セット	一組	玉蟲塗盆一、容器三、匙一
丸盆	一枚	水玉模様
卷蕒入	一個	茄子模様台共
卓上喫烟具	一組	線模様銀落付
人形ブラシ	七個	塔形、コケシ、輪形、連珠、雛二、喜多八一
インクスタンド	一個	彫刻入
電氣スタンド	二個	雲縹塗赤球等共台黒塗朱縁セロン笠共
ビール盆	三枚	アルミ製一、昭美織應用一、黒塗ハギ合セ一
洋酒セット	一組	瓶入コップ付
梅鉢形菓子器	一個	玉蟲塗ケース付
計	七六點	

一、第十回大阪府工藝展覽會

昭和九年五月十一日ヨリ同月三十日迄

大阪府工業獎勵館出陳

品名	數量	備考
黑朱尺八寸	一枚	輸出向
長手	一枚	同
淡紅尺八寸	一枚	同
長手	一枚	同
黑尺八寸	一枚	同
長手	一枚	同
小黒尺八寸	一枚	同
綠尺八寸	一枚	同
小緑尺八寸	一枚	同
黒尺五寸	一枚	同
長手	一枚	同
朱尺五寸	一枚	同
長手	一枚	同
黒尺五寸	一枚	同
小黒尺五寸	一枚	同
紅尺五寸	一枚	同
小紅尺五寸	一枚	同

品名	數量	備考
黃尺五寸	一枚	輸出向
小	一枚	同
黒尺七寸五分八角	一組	同
長手編綠	一組	同
朱黠朱尺八寸變隅	一組	同
長手編綠	一組	同
綠尺七寸五分八角	一組	同
長手編綠	一組	同
紅尺八寸變隅	一組	同
長手編綠	一組	同
淡紅尺八寸變隅	一組	同
長手編綠	一組	同
本朱尺八寸變隅	一組	同
長手編綠	一組	同
計	三三点	

一、第二回昭和九年商工省輸出工藝品展覽會

昭和九年 十一月十日ヨリ同月十九日迄  
十一月五日ヨリ同月十一日迄  
十一月十七日ヨリ同月廿一日迄

東京上野・日本産業館  
大阪・大阪府立貿易館  
名古屋・愛知縣商品陳列所

「巴」ハ日本工藝品巴里陳列會出陳物ナルコトヲ示ス

品名	數量	備考
白粉	一二個	各種 巴九
卷煙草	六個	各種 巴四
ボンボン入	一個	各種 巴六
フィンガーボール	六個	各種 巴六
コーヒー盆	四組	各種 巴四
食器盆	五枚	各種 巴二
ベン皿	一枚	各種 巴二

品名	數量	備考
化粧盆	二枚	各種 巴二
化粧臺	二枚	各種 巴二
果物鉢	一個	各種 巴二
食器盆	四組	各種 巴三
フラシユ、クツシヨ	一枚	織物 巴三
計	四五点	

一、有名産地漆器銅鐵器宣傳大會參考品協贊出品

昭和九年十二月一日ヨリ同月七日迄

大阪日本橋、松坂屋出陳

品名	數量	備考
灰	一個	各種
食塩	一個	各種
砂糖	一個	各種
フルーツセット	一組	各種
スモールキャンドル	一個	各種
ボンボン入	二個	各種

品名	數量	備考
銘々盆	一組	各種
煙草	三個	各種
ベ巻	二個	各種
葉卷	一個	各種
ビ	一個	各種
チョコレート箱	一個	各種
計	六二	

品名	數量	備考
花子鉢瓶	一本	
菓子鉢	一個	
ビスケット入	一個	
白粉入	五個	各種
化粧粧臺	一枚	
インクセット	一組	
食器	一組	
薄手器	一枚	

一、東久邇宮殿下ノ御台覽品

昭和十年一月二十一日

品名	數量	備考
小判形編付貝入	一組	
食器	一組	
小判形器	一組	
八角長手器	一枚	
化粧粧臺	一枚	

品名	數量	備考
八角長手器	一枚	
二段縁	一枚	
化粧粧盆	二枚	各種
菓子盛	二組	各種
計	三六點	

和歌山縣商品陳列所出陳

品名	數量	備考
ハンカチ箱	一個	
手袋箱	一個	
ベレン皿	一個	
葉巻入	一個	
煙草入	二個	各種

品名	數量	備考
灰皿	一個	
ビン入	二個	各種
ボンボン入	三個	同
チョコレート入	一個	
ビスケット入	二個	各種
フィンガーボール	五個	同
白粉入	四個	同
變隅長手器	一枚	

品名	數量	備考
レース張楕円器	一枚	
長楕円器	盆	
硝子蓋	入	
砂糖燭臺	一個	
小燭臺	一個	
食塩入	一個	
計	三四點	

一、石川縣工業試驗場創立十五周年記念展覽會

昭和十年四月十一日ヨリ同月十三日迄

同試驗場出陳

品名	數量	備考
卷黃入	一個	
丸盆	一枚	
茶櫃	一個	
化粧粧盆	一枚	
ベレン皿	一枚	
チョコレート入	一個	
小筥	一個	
化粧粧臺	一枚	
コトヒ	一組	
食器	一組	
計	一〇點	

一、復興記念横濱大博覽會

昭和十年三月二十六日ヨリ五月二十四日迄出陳

品名	數量	備考	品名	數量	備考
楕円形紅手盆	一組		煙草入	一個	
長縁形手盆	一枚		竹應用セット	一組	
化粧臺	一枚		楕円形編付食器	一組	
化粧盆	二枚	各種	六角形菓子	一個	
ボンボン入	一個		計	二点	
ビスケツト入	一個				

一、黒江意匠會展覽會

昭和十年八月二十五日ヨリ同月二十六日迄

海南市日方小學校出陳

品名	數量	備考
茶櫃	三個	紀州彫漆器色研出各種

商工省第二十二回工藝展覽會

昭和十年  
 四月十六日ヨリ四月廿五日迄 東京・府立東京商工獎勵館 出陳  
 五月八日ヨリ五月十四日迄 京都市立美術館  
 五月三十日ヨリ六月五日迄 長崎市立商工獎勵館  
 六月廿一日ヨリ六月廿七日迄 名古屋・市立公會堂

品名	數量	備考
ストローブ前立	一基	三等賞授與(口繪寫真参照)

(三) 講習會講演會及座談會ノ開催

イ、主催 和歌山縣工業試驗場  
 ロ、目的 及趣旨

縣工業試驗場ニ於テ紀州漆器同業組合後援ノ下ニ輸出漆器ニ關スル製作技術ノ基礎的技能ヲ養成センガ爲、先進地ノ特種優良技術者ヲ招聘シ短期講習會ヲ開催シ、當地方輸出漆器ノ缺点ヲ補ヒ以テ當業者ノ技術ノ向上ニ努メル外、輸出漆器ノ振興ニ關スル講演會及座談會ヲ開催シ、永年不振ノ状態ニアル當地輸出漆器ノ振興ニ關シ地方業者ニ對シ智識ノ啓發ニ努メタリ。

ハ、講習、講演及座談會

一、塗裝及蒔繪短期講習會

會 期 昭和九年八月三十日ヨリ二日間  
 會 場 當漆器部及紀州漆器同業組合事務所  
 講 師 石川縣技師 石川縣立工業學校教諭 太田誠二氏  
 受講生 一五〇名、來聽者一五〇名  
 後 援 當 試 驗 場

一、蒔繪圖案夜間短期講習會

會 期 昭和九年九月一日ヨリ十五日間  
 會 場 當 漆 器 部  
 講 師 當 部 職 員  
 受講生 三〇名



一、貿易振興座談會

會期 昭和九年九月十三日  
會場 當漆器部  
出席者 一三名

一、挽物振興座談會

會期 昭和九年九月十九日  
會場 當漆器部  
出席者 一〇名

一、輸出向漆器蠟色仕上講習會

會期 昭和九年十二月十五日ヨリ四日間  
會場 當漆器部  
講師 當部職員  
受講生 二一名

一、輸出工藝振興ニ關スル講演會

會期 昭和十年三月二十三日  
會場 紀州漆器同業組合事務所  
講師 商工省工藝指導所長 國井喜太郎氏  
來聽者 一五〇名

(四) 見本ノ製作

イ、見本製作者

和歌山縣工業試驗場  
紀州漆器同業組合  
紀州製傘同業組合  
紀州織物工業組合

ロ、製作見本ノ品種別及數量

一、漆器

輸出向編緣盆	四種 (二四組)	五四枚
同 湯曲盆	三種 (二八組)	四八枚
同 板物類	八種	六四個
同 小箱類	二四種	一三八個
同 丸物類	二二種	一二八個

二、日傘

輸出向日傘 三種 一五〇本

三、シール織物

クツシヨン	一種	五枚
卓子掛	一種	二打
カーテン	一種	五組
テーブルセンター	二種	二打

(五) 見本品ノ配布方法及配布先

縣工業試驗場ニ於テ見本品ノ適當ナル輸出先ヲ選定シ、縣物産幹旋所ノ幹旋ヲ經テ海外商品陳列館ニ發送シ之レガ批判ヲ仰グ外、組合及地方輸出商ヨリ直接見本配布又ハ内地ニ於ケル取引先ノ輸出商館、外人商館ニ托シ海外ニ於ケル一流ノ大商店へ發送セシメ其ノ販路ヲ求ムル方針ヲ以テ、佛、英、米、伊、獨、印度、滿洲、支那、南洋、アフリカ等其ノ主ナル配布先ナリ。

四、依頼試驗

事	項	件數	點數	事	項	件數	點數
木地ニ關スル試驗		三五	一〇五	圖案ニ關スル事項		四〇	一二五
下地ニ關スル試驗		二二	六八	其	他	三	三五
髹漆ニ關スル試驗		一六	四七	計		一四四	四六五
蒔繪ニ關スル試驗		一九	八五				

五、質疑應答

事	項	件數	事	項	件數
木地ニ關スル事項		一三〇	髹漆ニ關スル事項		二五〇
下地ニ關スル事項		四〇	蒔繪ニ關スル事項		六四

圖案ニ關スル事項	其	他	計
一二〇	四〇		六四六

六、實地指導

事	項	件數	事	項	件數
木地ニ關スル事項		二八	圖案ニ關スル事項		二五
下地ニ關スル事項		二二	其	他	八
髹漆ニ關スル事項		二〇	計		一二五
蒔繪ニ關スル事項		一三			

七、調査

事	項	件數	事	項	件數
木地ニ關スル事項		一三	圖案ニ關スル事項		一九
下地ニ關スル事項		二〇	設備ニ關スル事項		三五
髹漆ニ關スル事項		二五	其	他	一〇
蒔繪ニ關スル事項		二八	計		一五〇

# 第五章 庶務部

## 八、貸與

輸出品	輸出漆器試作品	件數	一〇	點數	一八七
內地漆器試作品	內地向漆器試作品	件數	五	點數	一一三
當場參考品及標本	當場參考品及標本	件數	三五	點數	一七五
圖書	圖書	件數	七四	點數	一五二
計	計	件數	一二四	點數	六二七

## 九、機械器具使用許可

象嵌機	三〇	板物用小道具	三〇
丸鋸機	一〇	下地用小道具	一五
轆轤機	三	髹漆用小道具	一五
木工旋盤機	五	蒔繪用小道具	三〇
石版印刷機	二	計	一三八
吹霧塗裝機	三		
品目	件數	品目	件數

## 一〇、來場者

二二五〇名

# 庶務部

## 一、文書收發件數

收 受 四 一 二 件  
發 送 一 八 一 件

## 二、職員出張回数並二日數

職名	區分		管内		管外		計	
	回数	日數	回数	日數	回数	日數	回数	日數
場長	五一	五三	二四	五〇	七五	一〇三		
技師	一九四	二〇五	二二	四一	二二五	二四六		
技手	四八	四八	一九	四〇	六七	八八		
主事補	五	五	三	六	八	一一		
助手	四	四	一	一	四	四		
計	三〇二	三三五	六七	一三七	三六九	四五二		

## 三、印刷物ノ配布

昭和八年度業務報告

一五四部

四、來場者

三二人

五、現在職員

就職年月日	職名	姓名
昭和五年五月二十六日	擔當職務	小泉元正
全	地方商工技師	三田村
昭和五年五月六日	全	佐藤原村
昭和四年四月一日	全	後藤秀市
昭和七年四月九日	兼全 大阪稅務監督局勤務 商工技師	上岡藤市
昭和四年四月一日	全	堀部
昭和十年七月一日	全	阿部
昭和六年八月三十一日	全	明石部
昭和九年七月九日	全	林石部
昭和九年五月五日	全	湯川
昭和十年四月二十二日	全	松田川
昭和五年二月二十一日	全兼商工助手	秋田川
昭和七年四月四日	商工主事補	吉田川
昭和八年四月十二日	商工助手	立田川
昭和九年七月二十一日	全	樹雄

正誤表

頁 五	行 七	誤 風柄	頁 四	行 四	誤 於テ	頁 四	行 四	誤 能ハズシテ
二	二	水酸化銅	三	一〇	ビュコース	三	二	盆類ニシテ
三	三	全巾細布天竺	三	一五	錯酸	三	一	當業狀態
七	九	組 成	三	八	曝 得	三	二	計ラントスルモノ
元	一	普 高 溫	三	一	得 テ	三	二	室用トシテ
三	三	影 響 少 シ	三	一	米 製	三	二	ビン入
三	五	留 意 シザレバ	三	一	就 製	三	一	ケツト
三	三	水 硝 石	三	一	麵 製	三	一	ケツト
正	正	風 相	正	正	粉 碎	正	正	就 正
三	三	硫 酸 銅	三	三	計 算 セバ	三	三	盆 類 ニシテ
三	三	件 名	三	三	醋 酸	三	三	斬 新 態
三	三	金 巾 細 布 及 天 竺	三	三	桶 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	組 織	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	成 熟	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	最 高 溫	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	影 響 ナシ	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	留 意 セザレバ	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	並 ニ	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ
三	三	水 硝 子	三	三	曝 樽	三	三	計 算 セバ

四、來場者

三二人

五、現在職員

就職年月日	擔當職務	職名
昭和五年五月二十六日	場長	小泉元
全	醸造	三田村
昭和五年五月六日	醸造	佐藤秀
昭和四年四月一日	醸造	後藤
昭和七年四月九日	機織	上岡藤市
昭和四年四月一日	染色	森
昭和十年七月一日	醸造	堀部
昭和六年八月三十一日	漆器	阿部
昭和九年七月九日	全	明石
昭和九年五月五日	機織	林
昭和十年四月二十二日	染色	湯川
昭和五年二月二十一日	全	松田
昭和七年四月四日	庶務會計	全兼商工助手
昭和八年四月十二日	醸造	商工主事補
昭和九年七月二十一日	漆器	商工助手
		全
		立
		吉
		秋
		松
		湯
		林
		明
		阿
		堀
		森
		上
		後
		佐
		三
		小
		氏
		泉
		元
		名
		正
		豐
		貢
		三
		郎
		茂
		進
		憲
		一
		英
		造
		周
		好
		健
		康
		英
		樹

兼全  
大阪稅務監督局勤務  
商工技手

昭和十年八月十日印刷  
昭和十年八月十五日發行

發行所

和歌山縣工業試驗場

和歌山市一番丁一番地

和歌山市小松原通一丁目五番地

印刷所

林正文行

電話一四九五番

日本標準規格 A 5

(148×210mm)